

令和5年第13回

札幌市教育委員会会議録

令和5年第13回教育委員会会議

1 日 時 令和5年8月3日(木) 10時30分～17時40分

2 場 所 STV北2条ビル6階 A・B会議室

3 出席者

教 育 長	檜 田 英 樹
委 員	阿 部 夕 子
委 員	佐 藤 淳
委 員	石 井 知 子
委 員	道 尻 豊
委 員	中 野 倫 仁
教育次長	竹 村 真 一
生涯学習部長	木 村 良 彦
学校施設担当部長	池 田 秀 利
学校教育部長	長谷川 正 人
教科用図書選定審議会委員	河 合 博 子
教科用図書選定審議会委員	森 岡 香 子
教科用図書選定審議会委員	吉 田 卓 矢
教科用図書選定審議会委員	高 橋 謙 介
教科用図書選定審議会委員	村 井 悠 介
教科用図書選定審議会委員	井 上 絵 里
教科用図書選定審議会委員	高 桑 陽 子
教科用図書選定審議会委員	山 口 剛
教科用図書選定審議会委員	岩 田 悟
教科用図書選定審議会委員	湯 澤 将 武
教科用図書選定審議会委員	丸 山 未 来
高等学校・中等教育学校後期課程部会	矢 田 春 義
教科用図書選定審議会委員	久 保 和 也
教科用図書選定審議会委員	牧 野 弘 幸
特別支援教育部会部長	宗 石 健太郎
教科用図書選定審議会委員	工 藤 雅 文
教科用図書選定審議会委員	石 川 大 地

児童生徒担当部長
教職員担当部長
総務課長
庶務係長
書記

廣 川 雅 之
佐 藤 圭 一
前 田 憲 一
新 井 達 之
鶴 江 哲

4 傍聴者 34名

5 議 題

協議第1号 令和6年度使用教科用図書の選定について

【開 会】

○**檜田教育長** これより、令和5年第13回教育委員会会議を開会いたします。
本日の会議録の署名は、阿部夕子委員と佐藤淳委員にお願いいたします。

【議 事】

◎**協議第1号** 令和6年度使用教科用図書の選定について

○**檜田教育長** 本日は、これまでの2回の審議を受けて小学校用、小学校と兼ねている義務教育学校前期課程用教科書の選定について審議を行うとともに、高等学校用並びに中等教育学校後期課程用教科書、特別支援教育用教科書についても選定の候補があげられておりますので、審議を行います。

○**檜田教育長** 小学校用、小学校と兼ねている義務教育学校前期課程用教科書については音楽、図画工作、社会、算数、生活、国語、理科、家庭、体育、道徳、外国語の順に審議を進めていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○**檜田教育長** それでは、このような形で進めて行きたいと思います。まず、本日の審議に入る前に、前回までと同様、私から委員の皆さんに、確認させていただきたいことがあります。前回の教育委員会会議終了後、本日までに、みなさんには、特定の組織や団体、あるいは、会社等から、働きかけや影響力の行使、圧力等はありませんでしたか。

(「なし」と発言する者あり)

○**檜田教育長** ただ今、みなさんから「影響力の行使や圧力等はなかった」との回答をいただきましたので、私たち6人による協議は、教科書採択の公正・中立性を確保しうるものであると判断いたします。

○**檜田教育長** 続いて、さらに2点、確認したいと思います。前回までの審議におきまして、小学校部会の各小委員会委員長、あるいは委員に「特定の組織や団体、あるいは会社等から、働きかけや影響力の行使、圧力等がありましたか」との質問をしましたが、いずれも「ありません。」との回答でしたので、調査研究に対する圧力等はなかったものと判断します。

また、小委員会委員長などの意見につきましては、学校教育に携わる専門的な見地からの発言として参考にしてきましたが、本日の審議に当たりましても同様に参考にして考えたいと思います。みなさん、この2点について、よろしいでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○**檜田教育長** なお、本日は、審議会委員でもある各教科用図書選定審議会委員に出席を求めていますので、審議の中で、必要があれば随時質問していただきたいと思います。

○**檜田教育長** では、審議に入ります。本日の審議では、前回までの審議において選定の候補とした教科書から1者を選定いたします。これまでもそうですが、各教科書の特長などから、札幌の子どもたち、特に小学生にとって、どの教科書がより望ましいか、という点を大切にして、審議していきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○**檜田教育長** それではまず、音楽から審議を始めます。7月21日の審議に引き続き、音楽は「教出」「教芸」の2者から1者を選定いたします。前回の審議を踏まえまして、各委員から改めましてご質問がございましたら、お願いいたします。

○**檜田教育長** では、私から質問ですが、札幌市として設定する調査観点Bに関わって、2者の音楽づくりに関わる特長があったかと思いますが、改めて説明をいただけますでしょうか。

○**教科用図書選定審議会委員** 2者ともにペアやグループの活動により、音楽の活動を取り入れたコミュニケーションが可能となっております。例えば、教出では声や身近な楽器を使い、言葉や和音などを手掛かりにしながら、表したいイメージをどのように音や音楽で表すかという課題をもって、学習することが可能です。教出5年生の48・49ページのように、「雪」という詩を音楽にしていくという教材となっておりますが、拍や調に捉われない、子どもの自由な発想による音楽づくりができる内容となっております。一方、教芸では、旋律づくりを扱う音の数を3年生から段階的に増やしており、調性をより所としながら、音

楽をつくる学習が可能となっております。発達段階を考慮した、系統性のある題材・配列になっていると考えます。また、つくった音楽を記しておけるような工夫がされており、例えば、6年生の22ページのように、視覚的に確かめながら、試行錯誤をすることが可能な構成となっております。このことは、小学校音楽における技能を基盤とした学習をする中学校への繋がりの方点から見ても、有効な手立てであると考えます。

○**檜田教育長** わかりました。ありがとうございました。

○**檜田教育長** 教科用図書選定審議会委員からもありました「札幌市として」という点からしますと、課題探究的な学習活動の取扱いや、豊かな人間性や社会性を育むことといった観点などにおいて、各教科書の特長や違いがあるように思います。

○**檜田教育長** それでは、これらの観点を中心に、札幌の子どもたちにとって、どの教科書がより望ましいか、ということについて、各委員からのご意見をいただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○**檜田教育長** それでは、どなたからでも結構ですので、ご意見をお願いいたします。

○**道尻委員** 私は、「教芸」が良いのではないかと考えます。札幌やK i t a r a が取り上げられているなど、札幌の子どもたちが身近に接し、また、授業にも役立てられるようなものがあり、併せて、学校意見では、学習の流れが非常にシンプルで、活動内容が分かりやすいという評価もあったためです。

そのほかには、音楽は生涯にわたって付き合いがあり、生活を豊かにしていくものだと思いますが、多様な音楽に触れて、自分なりにあった音楽を見つけて楽しんでいくということの基本となるような、様々な音楽や日本の古典芸能が紹介されていることが評価できるものと考えました。

○**石井委員** 私も、「教芸」が良いのではないかと考えます。道尻委員も仰っていましたが、札幌と関わりのある内容が多く、子どもが興味・関心を持ちやすい

のではないかと考えました。

次に、全学年を通してアイコンが掲載されており、子どもたちがそのアイコンによって自ら課題をもつことができること、題材ごとの振り返りを促す記述となっていることが良いと考えました。

他の保護者から、音楽が苦手な子どもの話を聞いたところ、音楽が苦手な子どもの特長の一つとして、音は視覚で見えず、耳で聴くものということが要因であるようで、視覚的に見えた方が音楽に取り組みやすいのではという声を聞くことができました。前回の会議でも質問をしましたが、「教芸」は楽譜ではなく、図形のようなもので音楽を表現しているものが多く、例えば、4年生の58ページ「さくらさくら」ですと、さくらの図形で音楽を表現しております。「教出」でも同様の教材が4年生に掲載されておりますが、比較すると見た目的にもわかりやすいですし、音楽ゲームのような表現と似ており、子どもたちにとって視覚で理解する上で役に立つのではないかと考えました。

○阿部委員 私も、「教芸」が良いのではないかと考えます。まず、課題探究という点からは、石井委員も仰った「考える」「見つける」「うたう」「演奏を作る」というアイコンが分かりやすく、加えて、振り返りができる作りが良いかと考えました。

また、豊かな人間性や社会性を育む学習活動の取扱いという点からは、「教芸」がペアやグループになって、共働して音楽活動ができるような作りが良いかと考えました。

○佐藤委員 音楽の教科書としては、2者ともに甲乙つけがたいものではありませんでしたが、札幌の小学生たちにとって大きなイベントであるK i t a r aファーストコンサートにつながる、K i t a r aの実際の画像が複数学年に渡って掲載されているという点から、「教芸」が良いのではないかと考えます。

○阿部委員 古典芸能などに関しては2者ともに大きな差は無いとは思いますが、子どもの興味を引くという点から考えると、札幌にゆかりのある題材が多い「教芸」が良いのではないかと考えます。

○檜田教育長 委員の皆さんより、札幌の子どもたちにとって、身近なものから興味、関心、学びやすさなどどの観点からも「教芸」が良いのではという意見から、「教芸」を選定することといたします。

○**檜田教育長** 次に、図画工作について審議を行います。図画工作は7月21日の審議に引き続き、「開隆堂」「日文」の2者から1者を選定いたします。

まず、前回の審議を踏まえまして、各委員からご質問がございましたら、お願いいたします。

○**阿部委員** 前回の審議時に質問した内容と重複するかもしれませんが、開隆堂と日文の課題探究の部分について、開隆堂では、あったらいいなと思う夢の新製品を共同で作ること、日文では、詩や短歌が題材となっていることがそれぞれ異なるということでした。詩や短歌は、子どもたちが知らないものを題材とすることもあるということでしたので、札幌の子どもたちにとっては開隆堂の方がやりやすいという風を感じたのですが、そのあたりをもう少し詳しく教えてください。

○**教科用図書選定審議会委員** 課題探究的な調査学習の研究では、2者ともに様々な題材が掲載されておりますので、すべてを見た時には大きな差は感じられませんでした。

また、開隆堂の「ドリームカンパニー」については、開隆堂の中でも特長的ということで説明をしましたが、似た教材として、日文5・6年生の下の50ページ「あったらいいなプロジェクト」というものがあります。こちらは、想像した街を作っていくのですが、開隆堂とは目的が異なっております。実際に今ある世の中の課題から、「こんなふうになったらいいな」ということを考えながら作品に表していくという趣旨になっており、調査研究項目2(2)に記載した題材となっております。

2者ともに子どもたちの発達段階にあった題材を設定していただいているという感想はありますが、似た題材がある中で、日文のように、全学年に渡って詩や物語から絵を表すという題材が取り上げられているという設定が開隆堂には無いことから、紹介をさせていただきました。

○**阿部委員** そうしますと、日文の詩や短歌や物語から想像して作品を作り上げるということは、決して子どもたちにとって難しい話ではないということでしょうか。

○**教科用図書選定審議会委員** 知らない詩や物語を持つてくることもあるので

すが、国語の教科書で学んだ物語から表現してみようという教員もおります。知らない題材を持ってきて、0から作ってみようということもあれば、子どもたちの実情に合わせて、想像しやすいみんなが知っている詩や国語で習った物語から想像してみようという題材の作り方もできますので、難しいものではないかと考えています。

○阿部委員 わかりました。ありがとうございました。

○檜田教育長 他はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

○檜田教育長 それでは、阿部委員からもお話がありました課題探究的な学習活動の取扱いや、国際性を育むことといった観点などにおいて、各教科書の特長や違いがあるように思われます。

○檜田教育長 それでは、これらの観点を中心に、札幌の子どもたちにとって、どの教科書がより望ましいか、ということについて、各委員からのご意見をお願いいたします。

○佐藤委員 図画工作につきましても、甲乙をつけ難いものとして拝見しておりました。2者ともに課題探究的な学習の活動が可能な内容であり、日本の伝統文化に親しむ学習活動が可能なものでしたので、差を見出すことは難しいものでした。

ただ、他教科との繋がり観点から、開隆堂では「あわせて学ぼう」、日文では「繋がる学び」とそれぞれ記載があるものの、開隆堂は他教科の名称だけでなく、具体的な内容について繋がりを取り上げていて、例えば、国語であれば「文章で表してみよう」、算数であれば「展開図を作ってみよう」といった具体的な発問が載っており、指導される先生がより使いやすいのではないかと思いましたので、「開隆堂」が良いかと考えます。

○道尻委員 佐藤委員と同じ意見で、2者のどちらもそれぞれ工夫されており、目標や提案に向けて活動するということが課題探究的に行えるような作りとなっているのではないかと考えます。

その中で、どういった点から選別するかを考えた際、札幌の子どもたちの身近な生活との結びつきを考慮するのであれば、さっぽろ駅にある作品が掲載さ

れており、アイヌ衣装の模様が取り上げられている「日文」の方が札幌の学びにとって良いかと考えます。この点は、市民の意見の中にも同様の意見があり、私も共感したところです。

○石井委員 私も甲乙をつけ難かったのですが、図画工作の目標として、普段の生活や社会の中で美しさに気付ける資質を養うと考えた時に、「日文」が良いかと考えます。

美術館の鑑賞マナーなどは2者ともに掲載されておりますが、札幌らしさという点で、5・6年生上の56・57ページに「ハロー！ミュージアム」が載っていること、比較した際に、「美術館へ行こう」というページが非常に見やすいと思いました。これは、鑑賞における課題探究的に繋がるかと思えますし、美術館の楽しみ方やマナーは生涯学習にも繋がる部分もあり、子どもたちの今後に役立つのではないかなと考えました。

もう一点比較しますと、美術品や工芸品だけではなく、日本に昔からある模様に注目していることや、焼き物だけでなく、土器にも着目している点にも好感を持ちました。

そのほか、課題探究という点で、言葉から発想を広げるということも良いかと考えました。詩や短歌から自己対話を繰り返し、自分ならではの表現を見つけて作品・表現を考えていくことは難しいものだと思いますが、是非学校で取り組んでいただきたい部分だと思います。

○阿部委員 課題探究について、先ほどの質問をする前までは、言葉から想像を広げていくというのは札幌の子どもたちには難しいのかなという先入観があり、開隆堂の方が良いかと考えておりました。ただ、改めて説明を聞きまして、そこまでの難しさは感じないということ、他教科との関連が持てるきっかけになるということから、どちらの教科書を選んでも差はないように思いました。

もう一つの観点である国際性を育むという題材の取扱いという点におきましては、こちらは圧倒的に「日文」の方が良いかと考えました。5・6年生下の38から41ページの作品の取り上げ方がわかりやすいということ、日本の文化はここで学べることができるということ、その他にも、和紙、工芸品や美術品が非常にわかりやすく表現されていて、絵もすごく綺麗だなという印象がありました。

○中野委員 両者ともに大きな差はないというのは他の委員と一緒にのですが、開隆堂は取り上げられている題材や作品は芸術性が高く、完成度の高さよりも子どもにたちにとって難しそうな印象の方が若干上回っていると思いました。

反対に、札幌のイメージが湧く題材が入っていることから、「日文」が良いかと考えます。

○檜田教育長 ありがとうございます。

ご意見が分かれたところではありますが、佐藤委員におかれましては、甲乙つけがたいというご発言と、阿部委員が仰った、他教科とのつながりの部分では日文も広がり部分はあるかと思えます。確かに、記載は開隆堂の方がより具体的な記載はありますが、佐藤委員、いかがでしょうか。

○佐藤委員 私が注目したところは他教科とのつながりや具体的な発言という点でありまして、札幌市の先生方は教科とのつながりを様々な発問により子どもたちへ投げ掛けてくれると思えますし、日文の方も複数の委員が仰ったように優れた点があると思えますので、「日文」で異論はありません。

○檜田教育長 ありがとうございます。

これまでのご意見から総合的に判断しますと、図画工作につきましては、ハローミュージアムなど札幌の取組を取り上げていることで、導入部分から入りやすいことや、伝統文化という点でも、様々な工夫により子どもたちにとっても新たな発見に見いだせることから、学びの広がりも考え、「日文」を選定することでよろしかったでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○檜田教育長 それでは、図画工作につきましては、「日文」を選定することといたします。

○檜田教育長 次に、社会と地図について審議を行います。7月21日の審議に引き続き、社会については対象となる「東書」「教出」「日文」の3者から、地図については対象となる「東書」「帝国」の2者から、それぞれ1者ずつ選定いたします。

○**檜田教育長** まず、社会の方から進めてまいりたいと思いますが、一緒に地図の方も進めてよろしいでしょうか。いかがいたしましょうか。社会から進めましょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○**檜田教育長** まず、前回の審議を踏まえまして、さらに、各委員からご質問がございましたら、お願いいたします。

○**中野委員** 北海道の雪国における社会的状況に対しての教育内容について、大雪による災害など、色々と注目することがあると思うのですが、3者において、説明や記載に差があるか教えてください。

○**教科用図書選定審議会委員** 前提として説明をさせていただきますが、気候にあった暮らしを学ぶ学習については、学校の実態に応じて、温かい土地の暮らしと寒い土地の暮らしを選択する教材となっており、札幌市では、温かい土地の暮らしを学ぶことが多い状況です。

3者の掲載状況について、東書5年生上の58ページに札幌市の雪対策や雪を活かした観光の掲載があり、札幌市の住む人々の雪との共生を学ぶことが可能となっております。

次に、教出6年生58ページには、選択の教材とはなりますが、雪とともに生きる暮らしを支える政治として、降雪量が多い札幌市における雪対策や観光を通したまちづくりについて掲載されており、雪との共生について学ぶことが可能となっております。なお、政治や地方自治の単元で雪を取り扱っているのは教出のみとなります。

最後に、日文に関しましては、5年生の「寒い土地の暮らし」において旭川市の雪対策等を扱っておりますが、札幌市の取扱いはありません。

○**中野委員** 4年生に自然災害という項目がありますが、そこで北国で多い災害の説明について差はありますか。

○**教科用図書選定審議会委員** 東書では取扱いがありませんが、教出と日文では、札幌市のものではないものの、雪害の取扱いがあります。教出は4年生1

12ページ、日文は116ページにそれぞれ掲載があります。

○中野委員 わかりました。ありがとうございました。

○檜田教育長 他はいかがでしょうか。

○阿部委員 改めてとなりますが、資料の取扱いについて、各者での違いや特長を教えてください。

○教科用図書選定審議会委員 7月21日の説明と重複する部分ではありますが、東書5年生上72ページでは、暮らしを支える食糧生産について、生産額の推移を表したグラフとタイムマシンに乗ったドラえもんが掲載されており、見方・考えを働かせることができるようなマークと発問がセットになっておりまして、見通しをもって資料を読み解いていくことが可能な内容となっております。

次に、教出6年生220ページでは、平和で豊かな暮らしを目指してという学習について、これまで掲載されていた白黒写真がAIによりカラー化されることにより、服装や表情などに注目しながら、具体的に読み取ることが可能な内容となっております。

日文に関しましては、5年生24・25ページが特長的です。全体を通して見開きに掲載されている学習資料が多く、子どもが資料を選択しながら読み取っていくことを通じて、味方・考え方を働かせることが可能な構成となっております。

○阿部委員 わかりました。ありがとうございました。

○檜田教育長 他はいかがでしょうか。

○檜田教育長 社会科については、アイヌや北方領土を取扱う調査研究の観点Aの部分、委員の皆さんからもありました課題探究の部分でありますとか、資料の取扱いに各教科書の特長・違いがあるということでしたけれども、これらの観点を中心に、札幌の子どもたちにとって、どの教科書がより望ましいか、ということについて、各委員からのご意見をお願いいたします。

○道尻委員 話題にもあった課題探究的学習については、それぞれ調べることや問いが各場面に示されていて、色んな事柄を調べて整理する、さらには話し合うといった主体的な学習ができる構成になっていると考えました。

札幌市の子どもたちにとって良いものという観点から見ましたところ、東書6年生上56ページ「寒い土地の暮らし北海道」、さらに58ページには札幌市の雪対策や雪を活かした観光が掲載されており、札幌市の雪対策室の担当者の方が紹介されるなど、具体的に取り上げられていること、また、アイヌの人々の暮らしについても取り上げられていることを評価する点としてあげたいと思います。

併せて、物理的な話にはなりますが、5年生が上下巻となっており、また、6年生も歴史、政治、国際に分かれており、いずれも分冊により軽量化されていることから「東書」が良いと考えました。

○阿部委員 課題探究の学習の取扱いについて、前回質問をさせていただいた際、東書の「調べる」という部分が選択制となっていて、自分の興味・関心のある分野を選ぶことができるというお話を伺ったときに、これは他者には無い特長だということと、子どもたちが自分事と捉えて、何を調べて行けばいいんだろうという興味・関心にもつながっていくものだと思います。

次に、先ほど質問をした内容に関わりませんが、東書の写真が鮮明でわかりやすく、なおかつ綺麗というところに惹かれる部分がありました。

また、先ほど道尻委員も仰っておりましたが、5・6年生が分冊されているということが他者には無い特長ということで、全体を通して「東書」が良いかと考えます。

○佐藤委員 冒頭の学び方に関して、一番手厚いと感じたのは教出でした。また、領土問題を各者取り上げているのですが、教出が漁業に及ぶことも示しており、比較的手厚く取り上げていると思いました。

また、先ほど、阿部委員も仰っていたA Iによりモノクロをカラーへ変換した写真については、単にその技術だけではなく、現代の子どもたちに、過去の子どもたちも自分たちとそう変わらないということ、色が付いたことで遠い感覚を持たせにくくするという点において大きな効果があるものだと思います。

併せて、雪対策について、6ページに渡り、政治、市政も含めて詳しく書いてあることから、「教出」が特長の多い教科書だと考えました。

○石井委員 1者に決めかねている状況なのですが、「教出」と「東書」のいずれかが良いかと考えております。2者ともに課題探究的な取り扱いという点では変わらないと考えておりますが、東書は自身で選択できることから、主体的に学ぶ姿勢が身に付くこと、発問や着目点を示した文章ということが、子どもたちが資料を読み解くときに役立つのではないかなと考えております。教出は北海道に関する取り扱いが多いというところ、特に根室の水産業を取り上げているところは他者には無い特長だと思いました。

また、佐藤委員も仰っておりましたが、資料の取扱いのところで、写真がカラーになっているという点は、歴史が連続して自分があるということが実感できるような身近な資料として扱うことができるのではないかと考えております。

以上のことから、2者のいずれでも良いなと考えております。

○中野委員 私は、3者とも内容として大きな差がないことから、いずれを選んでも子どもたちにとって悪くないのかなと考えておりました。

ただ、日文は情報量が多いことから非常に良いと思っていたのですが、札幌の題材があまり取り上げられておらず、西日本の事例が多いことから、そちらをメインに作られたのかなというイメージがありました。小学生にとっては、身近な内容の方が取り組み易いと思いますので、消去法で日文を落としました。

では、東書か教出かという点では非常に迷っており、どちらも大きな差は無いように感じました。4年生の自然災害について先ほど質問をしましたが、東書は雪害の題材が無く、教出には雪害の題材があり、日文は雪害に加えて津波も取り扱われ、一番詳しく書かれており、選択が非常に難しいと思いました。

その他にも、5年生の情報をどう使うかという項目では、東書は運輸、観光、医療、福祉が1ページだけにまとめられており、他者と比較すると、あっさりしているという点が気になりました。

また、課題探究の学習において、子どもたち自身が調べるためには、調べるための材料を多く提供することが必要で、十分に提供されていない中で、調べる・考えるということは子どもたちにとって難しいことだと思います。現在、使用しているのは東書ですので、大きな問題は無いのだと思いますが、少々使いづらいのかなと考えました。

それと、6年生の世界との日本の繋がりというのがあります。3者共通して

掲載されているのは、アメリカ・中国・ブラジルなのですが、それ以外に掲載されている国として、日文は韓国、東書はフランス、教出はサウジアラビアとそれぞれ異なっております。日本の隣国である韓国について、東書と教出はコラムにて1ページのみ掲載されている状況です。サウジアラビアについては、石油を輸入する関係がありますので、掲載する理由はわかるのですが、フランスについては、貿易量を考えても韓国の方が多いいにも関わらず、フランスを掲載している理由がわかりませんでした。

そういったことから、東書と教出のどちらが優れているという判断が難しく、また、教科書が分冊されていて負担が軽いといった、題材の内容以外で選んでよいのかわからず、決めかねているという状況です。

○**檜田教育長** 社会科については、小学校3年生のまち探検なんかもそうなのですが、まずは身近なところから始まり、そして世界に広がっていくという発達段階を踏まえますと、北海道、特にアイヌや北方領土、ほかに雪害といった取扱いについては、北海道が抱える課題と言いますか、そうした部分を子どもたちに丁寧に投げ掛けているのは教出の方かと思いました。

また、モノクロ写真がカラー写真になっていることについては、教えていた立場としては非常に驚いておりました、子どもたちはこんなにいい表情をしていたんだと新たな発見がありました。

東書・教出のいずれかを選ばなければならないという点では、札幌の子どもたちにとっては、教出の方が良いかと感じていますが、改めましていかがでしょうか。

○**中野委員** 教出の年表に関しては非常に充実しており、その点はわかりやすいとは思いました。

○**阿部委員** 3者を比較したときに、2つの課題探究的な特集の取扱いと資料の取扱いに特長があったということでしたが、どの項目にも共通している見通しを持つという点に関して違いはあるのでしょうか。

○**教科用図書選定審議会委員** 小委員会で話題になったことにつきましては、中教審の答申からも出ておりましたが、令和の日本型教育の構築を目指すということで、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図っていくため、個別最適な学習の個性化、子ども一人一人が主体的に学習を進めていくことが

重要となることから、課題探究的な学習の取扱いや、資料の取扱いの部分で大事にしていたところでした。

また、どの教科書においても、単元の学習問題については、しっかり掲載されておりますので、子どもが解決の方向性をしっかりと示されております。

その中でも大きな違いとなった特長について、東書は、学習問題が生まれた後に子どもの調べたいところから調べられるという「調べる」、教出は、すべてのページに学習した内容の問いと次に繋げようが見開きで掲載されており、見通しを含めて、この見開きをどう学んでいったらよいかという内容、日文は、左下のインデックスが学習過程と対応しているということで、「掴む・調べる・まとめる」の順で掲載されているというところです。

どちらが優れているという点では難しいところではありますが、構成にそれぞれの特長があるものとなっております。

○**檜田教育長** 東書は、最後のまとめは同じになる方向になりますが、子どもたちが課題を掴んで、複線的に調べることのできる点、教出の方は見開きで子どもたち全員が同じ課題をしっかりと認識した学びのしやすさといった点がそれぞれ特長だと思います。

○**檜田教育長** 次回にという訳にもいきませんので、どうでしょうか。

○**中野委員** 札幌の身近な題材が多いというところからも、「教出」が良いかと考えます。

○**石井委員** 私も「教出」で良いのではないかと考えます。1ページの中で、問と次につなげようというのが連続していることから、子どもたちに想像がつきやすいのかなと思いました。

○**道尻委員** 内容から甲乙つけがたいものと思っておりますので、「教出」で良いのではないかと考えます。

○**阿部委員** 私も必ず東書でなければならないという訳ではなく、また、委員皆様のご意見を伺っていると、教出の良さも改めて見えてきますので、「教出」で良いかと考えます。

○**檜田教育長** 東書、教出ともに、札幌がしっかりと捉えられている点からすると、甲乙つけがたいところではありますが、これまでのご意見を踏まえますと、札幌の子どもたちにとって、今回の採択については「教出」ということでよろしいでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○**檜田教育長** それでは、社会につきましては、「教出」を選定することといたします。

○**檜田教育長** 引き続き、地図について審議を行います。ご質問があればお願いいたします。

○**阿部委員** 2者ともにユニバーサルデザインを使用している旨の記載がありますが、フォントやデザインなど、いずれも使用されているということでもよろしかったでしょうか。

○**教科用図書選定審議会委員** いずれもお見込みのとおりとなります。

○**阿部委員** わかりました。ありがとうございました。

○**檜田教育長** 他はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。ご質問がなければ、ご意見をお願いいたします。

○**中野委員** 私は「帝国」が良いのではないかと考えます。北海道に関する大きな地図や拡大図が多いこと、江戸時代と現代の地図が比較されているところについて、新しい試みで良いのではと考えました。

統計に関しまして、産物との関係やシェアについて、グラフを使ってわかりやすく掲載されているのも良いかと考えました。

○**道尻委員** 私も「帝国」が良いのではないかと考えます。まず、地図は見やすさが命だと思うのですが、シンプルに見やすいこと、また、色合いに関して、グラフやそれぞれの地域を比較するという点でも、うまく作られているのではないかなと感じました。

○阿部委員 私も道尻委員と同じ意見で、非常に見やすいということと、地図が苦手な子どもは一定数いると思うのですが、要所要所に地図マスターへの道というコーナーがあり、興味・関心に繋がるのではないかと考え、「帝国」が良いのではないかと考えます。

○石井委員 私も「帝国」が良いのではないかと考えます。北海道と関わりのある内容や防災に関する内容が充実しており、先ほど、中野委員からもお話がありました。江戸時代の結びつきというページは、歴史を勉強する子どもたちにとっても非常に役に立つのではないかと考えました。

○佐藤委員 私も他の委員のご意見と同じで、歴史との関りを注目していましたが、江戸時代の結びつきで、様々な街道の紹介があることや、江戸時代の後期における人々の暮らし、各藩の分布が詳しく書いてあるなど、非常に日本の歴史に対しての配慮が手厚いのが帝国でありますので、是非、この部分は社会科の歴史と併せて授業で使っていただきたいなと思うことから、「帝国」が良いのではないかと考えます。

○檜田教育長 みなさん帝国ということで、僕も改めて2者を見た時に、例えばなんですが、帝国71ページに「東京都とそのまわり」というページがありますが、とうきょうというどうしても当初のように大都会というイメージの中で、帝国を見ると、実は周りは緑豊かであったり、こういう部分は東京の社会的に言うと、近郊農業とかそういうことを考えていくには実に重要な視点でありまして、地図って、色んな子どもたちに見ることで発見をとか、歴史の中でとか、他教科を含めて、色んな繋がりが持てるような広がりを持つという点でも、「帝国」の方が学びやすいかなと思いますので、私も帝国が良いかと考えます。

○檜田教育長 みなさんも一緒のご意見でしたので、地図につきましては「帝国」を選定することといたします。

○檜田教育長 それでは、ここで休憩といたします。再開は12時45分からとさせていただきます。

(休憩)

○**檜田教育長** それでは、会議を再開いたします。

○**檜田教育長** 次は、算数について審議を行います。

算数については、7月21日の審議において、対象となる「東書」「教出」「大日本」の3者を選定の候補といたしましたので、この3者から1者を選定いたします。

○**檜田教育長** まず、前回の審議を踏まえまして、さらに、各委員からご質問がございましたら、お願いいたします。

○**道尻委員** 前回、触れられているかとは思いますが、調査研究対象項目のデータの活用につきまして、改めて各者の特長を教えてください。

○**教科用図書選定審議会委員** データの活用領域におかれましては、まず前提として、問題、計画、データ収集、分析、結論という段階からなる統計的探究のプロセスを重視しております。そのプロセスに大きな特長が見られたのは、「東書」「教出」の2者となります。

東書については、単元を通して、家庭学習時間に着目をして進めております。多くのデータがある中から、一週間の家庭学習時間の合計をヒストグラムで比較・検討をして、その後、曜日ごとのヒストグラムから比較・検討しているところが大きな特長です。

教出については、八の字跳びで6年生が優勝するために、どちらの組を代表にすればよいかという内容を扱っており、その分析方法が、ドットプロット、度数分布表、ヒストグラムなど豊富なデータを扱っております。その単元を通して、どちらの組にするかを考えていくにあたり、「私は〇組が良いと思います。なぜなら～」といった、データの把握の仕方により、自己決定が可能な内容となっており、ここが大きな特長かと考えております。

○**道尻委員** わかりました。ありがとうございました。

○**檜田教育長** 他はいかがでしょうか。

○**中野委員** 教科書には、難しい内容をいかにわかりやすく導入するかという

面と、興味を持って、少しできるようになった子どもをより伸ばすという面があるかと思いますが、その2点について特長があるものを教えてください。

○**教科用図書選定審議会委員** 算数におきましては、やはり子ども自身が課題を見出すということが重要だと考えており、大きく特長があるのものは、「東書」「教出」となります。

全国学力状況調査におきましても、変化と関係領域は全国的に課題が見られるところとなります。そのため、割合の導入につきましては、各者の力が入っているところで、ここで子どもが自ら見出すかが大変重要であり、捉えることができれば、更に発展的に考えることが出来たり、先を考えたりすることが可能となるのではないかと考えております。

例を挙げますと、東書5年生下64ページに、シュートの入った回数の比較があります。Aさんは6回、Bさんは6回、Cさん9回と、一見、9回のCさんが一番入ったように見えますが、シュートを打った回数がAさんは15回、Bさんは12回、Cさんは15回と、全体の量も比較することに関係するといふことに気が付くことができるという特長があります。

教出につきましては、同じくシュートの題材で取り扱っておりますが、入った回数は、はるさんが10回、りょうさんが10回と示されているものの、投げた回数が空欄となっております。ここを空欄にすることにより、例えば、はるさんが20本打っているとした場合、半分は入ったことがわかりますが、りょうさんのシュート数が24本以上か未満で、ボールの入りやすさが違うということに気が付くことができます。このように、空欄の数値を自分で決めることを通して、比較することができることとなっております。算数に一ごプロジェクトにおきましても、教出の教科書を使用しており、若い先生からは、自己決定が保証されているという面では授業をしやすいという声が上がっております。

○**中野委員** わかりました。ありがとうございました。

○**檜田教育長** 他はいかがでしょうか。

○**檜田教育長** 前回の審議における小委員会委員長の報告や今のご質問の内容を整理してみますと、算数の場合は、課題探究的な学習のしやすさや、道尻委員からご質問がありました、データの活用の部分において、各者特長があるように

思われますが、前回、3者に絞った中から1社を選定することとなりますので、札幌の子どもたちにとって、どの教科書がより望ましいかご意見をいただきましたと思いますが、いかがでしょうか。

○道尻委員 課題探究的な部分、あるいはデータの活用の点において、「教出」が良いかと考えます。付け加えるとすれば、学んだことを使おうというテーマにおいて、生活との関連により、算数を学ぶ意義や意欲を持たせるという学習効果に繋がっていく点があるのではないかと考えます。

○石井委員 私も「教出」が良いのではないかと考えます。課題探究的な学習の取扱いとして、「はてな、なるほど、だったら」という、考えが繋がっていく、問が連続していく構成というのは、学校現場でも活用しやすいという声が出ていることで良いのではないかと考えます。

他には、道尻委員と同じ意見となりますが、学ぶことの意味を実感できるという点から、例えば、2年生上102ページの「夏休みの計画を立てよう」という題材で、学んだことを実際に使って日常場面に落とし込んでいくといった、算数の有用性を感じることができるのではないかと思いました。

○中野委員 前回、私だけ大日本を選びましたが、その理由としては、「ふくろう先生のなるほど算数教室」という、数学と関係するものがあり、より発展的な捉え方ができるのではないかと考えていたところですが、あれからもう一度すべて読み直したところ、その点をもって教科書を選定する理由とはならないのではないかとこの考えに至りました。

その中で、教出か東書のどちらかとなりますが、2者ともに大きな差は無いかと考えておりますので、いずれであっても良いかと考えております。

○佐藤委員 算数では、決まりである「まとめ」を明示して、授業の中で注目させるということが大事だと考えているのですが、東書は、まとめの欄を見てくださいと先生が指示しやすく、教出は、ピンクの鍵かっこで括られている部分に対して、こういった支持するのかなと心配する面はあるのですが、教科書の構成上、大きく影響するものではないと思いますので、教出を使用するとしても、適切に対応することは可能であろうと思っております。

また、教出が東書よりも良いと思う部分は、各委員指摘されているとおり、課題探究という観点から、次の内容との繋がりを意識できる構成で、流れを感じることができるというところです。その流れを有効に活用すれば、うまく

思考が繋がるのではないかとこのころです。

併せて、データの活用について、教出の方が分析例をより多く掲載しているという点からも、「教出」が良いのではないかと考えます。

○**檜田教育長** 各者の特長を踏まえた上で、札幌の子どもたちに望ましいものということのご意見をいただきましたけれども、子どもたちにとって、学びやすさや、身近な題材を非常に上手に使いながら、子どもたちの興味・関心を持たせるといことから、「教出」を選定することとしてよろしいでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○**檜田教育長** それでは、算数につきましては、「教出」を選定することといたします。

○**檜田教育長** 次は、生活について審議を行います。生活については、7月21日の審議において、対象となる「教出」「光村」の2者を選定の候補といたしましたので、この2者から1者を選定いたします。

○**檜田教育長** まず、前回の審議を踏まえまして、さらに、各委員からご質問がございましたら、お願いいたします。

○**道尻委員** 調査研究項目にある、自己肯定感を育む学習活動の取扱いについて、各者の特長があれば教えてください。

○**教科用図書選定審議会委員** 教出上36ページの下側をご覧ください。まず一つは、「発見ロード」というものがあり、自分の学んできたことの振り返りが可能な構成となっております。二つ目は、単元の最後にある「ぐんぐんはしご」で、子どもたちが学んできたことを自己評価することが可能な構成となっております。このぐんぐんはしごで、子どもが低い評価をした場合、教師が適切に関わり、教師が子どもと一緒に活用することで、頑張った部分を価値付けることにより、自己肯定感を育むことが可能な特長があります。

次に、光村上23ページの右下側をご覧ください。小單元ごとに振り返りを行うことで、子どもたち自身がこれまでの頑張りをこまめに気が付くことが可能な特長があります。

いずれも、自己肯定感を育むというった所では工夫されております。

○道尻委員 わかりました。ありがとうございました。

○檜田教育長 他はいかがでしょうか。

○阿部委員 今回の質問に関連しますが、ぐんぐんはしごのことを評価しながらも気になっている点がありまして、自己評価が低い子どもに、自己肯定感に繋がるように教師がサポートするというお話でしたが、実際に授業を進める中で、子どもたちがどのくらいの割合の評価をしているのか教えてください。

○教科用図書選定審議会委員 国語や算数が苦手な子どもであっても、生活はあそびがメインの体験的な活動となりますので、自己評価が高い子が多いかと思えます。

○阿部委員 前回の教科書採択の際にも話題となりましたが、巻末についている学びのポケットについては現状使われているのでしょうか。

○教科用図書選定審議会委員 こちらは、困っている子どもと一緒に教師が使うことや、単元を始める際に使用するものの説明をする際に活用されているかと思えます。

○阿部委員 では、必ず使用されるページというよりも、サポート的に使用されているということでしょうか。

○教科用図書選定審議会委員 お見込みのとおりとなります。

○阿部委員 光村の巻末にも同じような資料がありますが、もし使われるとなれば、同じようにサポート資料となるのでしょうか。

○教科用図書選定審議会委員 お見込みのとおりとなります。単元の中で活用する資料になるかと考えます。

○阿部委員 わかりました。ありがとうございました。

○檜田教育長 他はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○**檜田教育長** 前回の審議でも話題となりましたが、小学校1・2年生、幼保との連続性を大事しながら、札幌市が大事にする課題探究的な学習の取扱いや、子どもたちが学びたい、頑張ったという自己肯定感を育む教育活動が可能かどうかという観点において、各教科書の特長や違いがあるとことでした。

○**檜田教育長** それでは、これらの観点を中心に、札幌の子どもたちにとって、どの教科書がより望ましいか、ということについて、各委員からのご意見を、お願いいたします。

○**佐藤委員** 2者ともに子どもたちに対する配慮や工夫がされていると思いました。東書の発見ロードと光村の振り返ろうを比較していたのですが、光村は、どんな気持ちになったのかなという発問がほとんどで、小学校1年生が問われた時に、楽しかった、面白かったと教室のみんなが言う場面は思い浮かびました。ただ、そうではない子どもたちがいる中で、そこを担保できているのは教出かなと思いました。ぐんぐんはしごは3段階に分かれており、子どもたちのそれぞれの居場所が担保されているという点から、「教出」が良いかと考えました。

○**道尻委員** 私も「教出」が良いかと考えました。冬や雪との関りについては、2者ともに札幌の子どもたちが紹介されておりますので、遜色ないかと考えました。

ただ、先ほどの説明にもあった自己肯定感を育む特長や、単元ごとのわくわくスイッチというページで、その単元の課題を意識できるような工夫が、1・2年生を対象にしたものとして、よく考えられていると感じました。

○**石井委員** 私は、教出のわくわくスイッチに非常に好感を持っておりまして、小学校低学年の時の科目ということで、幼児期からの円滑な導入という部分を考えた時に、子どもたちが生活科に興味を持ちやすいのではないかと考えました。

また、自己肯定感を高めるという点では、2者ともに工夫が感じられますが、より教出の方が、自分で自分を評価することができる機会が多く、他者からの

評価を根拠にしない、本来的な自己肯定感を養うということを考えると、「教出」が良いかと考えました。

○中野委員 私は、2者ともに大きな差異はないと考えております。教出については、他の委員の仰るとおり良い部分はあるのですが、光村は非常に絵が鮮やかで、イラストもほのぼの感がありますので、低学年の子どもたちには合うのかなと思いますので、私は「光村」が良いかと考えます。

○阿部委員 課題探究的な学習の取扱いについては、2者ともに大きな差はないと思っておりますが、自己肯定感を育むという点では、光村の振り返りは、自分自身の良いところを発見できる作り方となっており、また、単元ごとに「こんなこともあるかもね」といった独特な表現が多く、疑問以外にも、子どもたちが自分はどうなんだろうと考えるにあたってのヒントが書かれている構成になっていると考えました。

また、教出のわくわくスイッチは、こうしたらいいのではという答えが示されており、2者を比較した際、自分自身で考え、答えを見つけ出す作りになっている「光村」が良いかと考えました。

ただ、教出が選ばれたとしても、それは絶対に違うという訳ではなく、自己肯定感を育むという点から、光村が上回っているという考えです。

○檜田教育長 2者それぞれ良さがあるということですが、低学年の子どもたちが学んでいくという点でどちらがより良いかということかと思いますが、いかがでしょうか。

○佐藤委員 追加で質問をしたいのですが、どんな気持ちになったかなと問いかけられた時に、どんな反応が返ってくるのでしょうか。また、質問を統一している意図というのはどういったものが考えられるのでしょうか。

○教科用図書選定審議会委員 子どもたちの反応につきましては、小委員会内でも話題となりましたが、学校体験を例に挙げますと、嬉しかった、楽しかったという単語、もしくは学校のことを知れて嬉しかったといった回答になるのではと考えておりました。

次に、質問を統一する意図につきましても、小委員会内でも話題になりましたが、質問への回答として、自分の気持ちを自覚化する子どももいれば、楽し

かったという情意的ものになるかと考えておりました。よって、どちらかといえば、子どもの思いを表出するという情意的な意図が強いと考えております。

○佐藤委員 わかりました。ありがとうございました。

○中野委員 教出のぐんぐんはしごについて、場面によって上がることもあれば下がることもあるかと思いますが、指導をする上で、留意しなければならないことはあるのでしょうか。

○教科用図書選定審議会委員 現在の教科書で掲載されている「まんぞくはしごと」を例にしますと、1年生は語彙力が少ないこともあり、思いを表出する際は丁寧に聞く対応をしておりますが、はしごを使うことで、活動では頑張っているものの、自身の評価が低いといった際にどうかかわるかといった、子どもが書いたことに教師が視覚的に見ることができるという点で、現場の教員からは重宝されていると伺っています。

○中野委員 他者との比較をすることで問題となることはあるのでしょうか。

○教科用図書選定審議会委員 現在の使用方法として、他者と比較するということはない聞いております。

○中野委員 わかりました。ありがとうございました。

○檜田教育長 各委員のご意見からもありますとおり、2者ともに特長があるということではありますが、前回、小委員会の委員も仰っていたように、小学校1・2年生の低学年の教科書ですので、学校に対しての自信を持たせたり、期待を膨らませたり、安心感を与えたりということが必要かと考えます。

その点からしますと、光村については、問いかけに対する回答は、ただ楽しかった、面白かったというものとなりますが、教出については、はしごの状況などを見ながら、視覚的に子どもの学びを捉えやすく、そのことで他教科の学びを広く見て、サポートができるということからすると、学校現場的には現在使用している教出が良いかなと思いますが、いかがでしょうか。

○阿部委員 先ほど、教科用図書選定審議会委員から語彙力というお話がありました。仰るとおり、子どもたちの気持ちを把握するためにも、教出のぐん

ぐんはしごに関しては、見てわかるというところがあり、また、今は低くても、今後、高久までいけるようにとといった自己肯定感を高めるということが繋げていけるだろうなということが想像できましたので、光村の良いところはあるところですが、「教出」の方が使い勝手はいいのかなという印象があります。

○中野委員 私は2者とも大きな差異はないと考えておりますので、「教出」で良いかと考えます。

○檜田教育長 1人1台端末が導入され、自分の気持ちを表現する場面は以前よりは多くなってきているかとは思いますが、委員の皆さんのご意見は色々いただいたところではありますが、どうしても1者に決めなければなりませんので、今回、生活については「教出」を選定することとしてよろしいでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○檜田教育長 それでは、生活につきましては、「教出」を選定することといたします

○檜田教育長 次は、国語について審議を行います。国語については、7月24日の審議において、対象となる「東書」「教出」「光村」の3者から1者を選定いたします。

○檜田教育長 まず、前回の審議を踏まえまして、さらに、各委員からご質問がございましたら、お願いいたします。

○中野委員 文学的な内容と実用的な内容という大きな括りで見ますと、各者に特長はありますでしょうか。

○教科用図書選定審議会委員 文学的な文章と説明的な文章について、国語では自分の考えを形成する学習過程を重視しており、読んだことを基に自分の考えをもつということは共通していると考えております。札幌市における現状の課題の一つでもあることから、各者とも学習の手引きなどを基に工夫してつくられているということが小委員会内で話題となりました。

例を挙げますと、東書については、6年生152ページ「永遠のゴミ プラスチック」という説明文があるのですが、こちらは、筆者の文章に加えて2つの資料が掲載されており、手引きの165ページ下段に文章と資料を関係付けて読む視点が示され、どんなことが分かるかを整理して、分かったことを基にプラスチックごみを解決するためにできることを考える学習活動が設定されております。

教出については、6年生下58ページ「僕の世界、君の世界」という単元につきまして、事例と筆者の考えを表にまとめて内容を捉え、手引き59ページの上段に示されている視点を手掛かりに、筆者の論じ方を話し合った上で、自身の経験と比べながら、考えたことを書くという活動を設定しています。

光村については、6年生62ページとなりますが、こちらは、筆者の主張や意図を捉え、自分の考えを発表するという単元となりまして、「時計の時間と心の時間」という文章から、筆者の主張が述べられている部分を探すことや、筆者が取り上げた事例の意図について話し合うなどの学習活動が提示されています。筆者の主張や意図を捉えた上で、その主張に納得や共感をしたり、疑問に思ったりしたことについて、自分の考えをまとめて、発表する活動が設定されております。この学習では、65ページの情報に係る単元の「主張と事例」と関連をもたせて学習することが可能となっております。

このように、子どもが考えを持つことができる学習活動を行うために、今回は説明的文章を取り上げましたが、文学的文章においても、手引きの中で考えをもつ過程が各者にて示されております。

○中野委員 文学的または物語的な題材の選択は各者で違いはあるでしょうか。

○教科用図書選定審議会委員 文学的な題材の内容につきましては、調査項目の中には入っておりません。ただ、過去から続けて採用されている教材もあれば、今の子どもたちに親しみのある作家の作品が取り上げられているといった工夫は見られるということに関しまして、小委員会内では話題となりました。

○中野委員 わかりました。ありがとうございました。

○檜田教育長 他はいかがでしょうか。

○道尻委員 今回の社会では、調べること、物を読むこと、書くことにおいて、1人1台端末も含めて、デジタル機器との関わりは避けて通れず、大きな意味合いをもってきておりますが、このデジタル機器との関わりについて各者特長があれば教えてください。

○教科用図書選定審議会委員 各者において、主に5・6年生でメディアとの関わりについて取り上げられております。掲載されている内容につきましては、著作権のことや複数のメディアの特長などが取り扱われております。

例を挙げますと、東書については、5・6年生の説明的文章の中で、インターネットに関わる内容を扱っております。

教出については、5年生上「ミニディベート AIとの暮らし」という、AIとの利点や問題点を話し合う活動を設定しております。そのほか、6年生上「言葉の広場」では、メッセージのやりとりや絵文字について触れられております。

光村については、6年生「生活の中で読もう」という、インターネットでニュースを読む活動を設定していること、また、「デジタル機器と私たち」という題材を設定しております。よりよくデジタル機器と付き合うために気を付けることを調べて、提案する文章を書くという活動を設定しております。

○道尻委員 わかりました。ありがとうございました。

○檜田教育長 他はいかがでしょうか。

○石井委員 書くこと領域に関わる質問なのですが、文章の推敲において、各者の違いがあれば教えてください。

○教科用図書選定審議会委員 文章の推敲におきましては、自分の文章のよさを見付けるというところで、各者それぞれ取り上げられております。

例を挙げますと、東書については、各学年の最後の書くことの単元で、年間書いてきたものを読み返して、文章のよさを見付けて伝え合う活動が設定されております。

教出については、4年生下66ページ「クラスの「不思議ずかん」を作ろう」という単元があり、「ふり返ろう」という学習過程の中で、自分や友達の文章のよさを考える活動が設定されております。

光村については、3年生下81ページ「私のまちのよいところ」という単元があり、互いの文章のよいところを伝え合う目標が設定されております。学習を進めた後で、書いた文章を読み合っ感想を伝え合い、振り返って次に生かしていくという例が示されております。

○石井委員 わかりました。ありがとうございました。

○檜田教育長 他はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

○檜田教育長 前回の審議における小委員会委員長の報告や、ただいまのご質問などからしますと、国語の場合は、札幌の子どもたちが少し課題の書くこと領域や読むことに関する部分につきまして、各者の特長があるとのことでした。

それでは、これらの観点を中心に、札幌の子どもたちにとって、どの教科書がより望ましいか、ということについて、各委員からのご意見をお願いいたします。

○道尻委員 各者それぞれ特長があり、一つに絞ることが難しいところではありますが、問いあるいは目標を意識して作品を読むということを考えますと、私は「光村」の教科書の作り方が見通しやすいのではないかなと考えました。こちらは、学校意見でもありまして同感したところではあります。

また、情報やデジタル機器について、日常生活の関わりの中で、問いを見つけてテーマについて考えて文章を書くという学習の流れ、あるいはディベートを行うことが優れているかと思いました。

○中野委員 私も「光村」が良いかと考えました。どのように文章を読んで考えていくかという構成や、読み取っていく過程の説明が他者よりも優れていること、また、文学的な題材が良く、そういった作品に触れてから、自分の考え方をつくっていけることが良いかと思いました。

○佐藤委員 私は「東書」「光村」のいずれかが良いかと考えました。中野委員が仰った、文学的な作品の理解や自分の考えのもち方という点では、光村に一日の長があると思いました。また、特に私が以前から評価しているのは、「大造じいさんとガン」の全文、前書きを含めて取り上げているところです。そういった点を含めて、文学的な要素では光村なんだろうなと思います。

一方で、近年、説明文の理解であるとか自分自身の考えであるとかを他者に

伝わるように書くといった、説明的文章の扱い方が注目されていると思います。その点に関しては、2者とも以前の教科書よりも手厚くなってはおりますが、比較したところ、東書の方が手厚いなと感じました。特に、学習の進め方やノートの作り方を冒頭でしっかりと押さえているなという印象でした。また、各教材の前段に配置される学習の進め方のページも比較したところ、こちらも東書の方がわかりやすいと感じました。つまり、この教材で一体何を学ぶのかということが事前に明確になっているのが東書の良いところだと思いました。

ほかにも、「言葉相談室」、「情報のとびら」で取り上げられている内容も良いですし、言葉の力、見通すことで何を学ぶのかが掴めるようになってきていると思いました。

微小な差であり、また、札幌の子どもたちも長らく勉強してきたところではありますが、今回、両者をニュートラルに比較したときに、説明文の理解という点では、東書の方が一歩先を行っているのかなという印象を受けました。

○石井委員 私も「東書」「光村」の2者で悩んでおります。文書の推敲ということで比較した際に、東書は各学年で自分の文章を見直すところがあり、光村は光村で充実しているとは思いました。

ただ、光村の方については、書く楽しさを取り上げているという点に好感を持っております。小学生の子どもたちから、書くことが苦手であることや、読んでもつまらないという声を耳にすることがあり、楽しい、面白い、わくわくするという気持ちをもって学ぶことができれば、子どもたちの興味・関心を引くことができるのかなと考え、そういった着眼点がある「光村」が良いかと考えました。

○阿部委員 先ほどの佐藤委員の意見を聞いて、東書も良いなと思ったところではありますが、やはり「光村」が良いかと考えました。理由の一つとして、3つの観点を書くこと領域や読むこと領域において特長だという説明があり、また、札幌の子どもたちの課題として、自分の考えをもつことと、自分の文章の良いところを見つけるという点においては、この3観点があることで、子どもたちが振り返えられる仕組みとなっているためです。

○檜田教育長 先ほど、石井委員も仰っていた、楽しく書こうという、自分で書くだけではなく、対話をしながら、子どもたち自身がお互いに学ぶような工

夫がされているという点からしますと、光村の方が子どもたちの学びが深まるかなと思っておりましたが、佐藤委員の意見も仰るとおりだと思いました。

ただ、いずれか1者に決める必要がありますので、佐藤委員、改めていかがでしょうか。

○佐藤委員 非常に差は小さいと思っております、光村に決めていただいても良いのですが、東書については、これまでも何度か拝見させていただきましたけれども、言語表現や文書理解といった点に重きを置いて、着実に特長を明確にしてきているように感じましたので、また次回の教科書選定で検討させていただければと思います。

○檜田教育長 1者に決めていかなければならないので、大変悩ましいところですね。

それでは、委員の皆さんのご意見は様々ないただきましたが、今回、国語については「光村」を選定することとしてよろしいでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○檜田教育長 それでは、国語につきましては、「光村」を選定することといたします

○檜田教育長 次は、書写について審議を行います。書写については、7月24日の審議において、国語と同様に「東書」「教出」「光村」の3者を選定の候補といたしましたので、この3者から1者を選定いたします

○檜田教育長 まず、前回の審議を踏まえまして、さらに、各委員からご質問やご意見がございましたら、お願いいたします。

○道尻委員 私は「光村」が良いのではないかと考えました。1年生の教科書では、「もじたんけんたい」で札幌市の小学校が取り上げられております。また、6年生の教科書では、さっぽろ雪まつりが取り上げられており、文字を学ぶにあたり、興味・関心をもつというところで効果が大きいのではないかと考えました。文字を学ぶ過程で、考える、確かめる、活かすという流れが作られているとわかりやすく、実際の学習の中に取り入れやすいという印象を持って

おります。

○阿部委員 課題探究的な学習の取扱いという点では、3者とも大きな差異はないと思っておりますが、その中で、光村6年生の書写ブックでは、6年間の学習をまとめた内容になっていて、振り返りもできるというところに差があったかなと思います。札幌らしさというところにおいては、光村は雪まつりのページや札幌の小学校の教室の掲示板が掲載されていることから、関心の高まりに繋がるのではないかと考えましたので、「光村」が良いかと考えました。

○石井委員 私も「光村」が良いのではないかと考えました。1教材1目標という基本構成が子どもたちにとってわかりやすく、また、毛筆の活動においては、ページの下の部分にある「大切」で示された学習のポイントを踏まえて、毛筆で書いた後に、普段使用する硬筆に繋げていく活動がわかりやすく、実際に文字を書く際、子どもたちも日常生活で活かすことができるのではないかと考えました。

○佐藤委員 3者ともに大きな差はみられませんでした。他の委員のご意見にもあるとおり、「光村」が良いのではないかと考えました。

○中野委員 私も「光村」が良いのではないかと考えました。教材の配列がわかりやすく、読みやすいと感じました。また、東日本大震災で手書きのポスターの教材も掲載されており、その点も印象的でありましたし、6年間をまとめている書写ブックも使いやすいものと思いました。

○檜田教育長 各委員より様々ご意見をいただきましたが、札幌が取り上げられていることで、子どもたちからすると興味・関心を持ちやすいこと、1教材1目標、学びやすさや、書写ブックの扱いやすさなどからも、今回、書写については「光村」を選定することとしてよろしいでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○檜田教育長 それでは、書写につきましては、「光村」を選定することといたします

○**檜田教育長** 次は、理科について審議を行います。理科については、7月24日の審議において、「東書」「教出」「啓林館」の3者を選定の候補といたしましたので、この3者から1者を選定いたします

○**檜田教育長** まず、前回の審議を踏まえまして、さらに、各委員からご質問がございましたら、お願いいたします。

○**道尻委員** 各者において、子どもたちが問題や課題に取り組むにあたって、興味・関心を引き起こすような特長があれば教えてください。

○**教科用図書選定審議会委員** 理科では、実際に物に触れて働きかけ、働きかけることで問題が見いだされ、その問題に対して予想や仮説を持ち、解決方法を子どもたち自身が発想していくという一連の流れが非常に重要となります。そのため、自然事象に触れていくことが大切となります。

例を挙げますと、東書4年生134・135ページ「物の温まり方」という単元については、レッツトライと併せて実際の活動が位置付けられております。ここでは、身近にあるスプーンを手を持って温まり方を実際に体感し、その体験から問題を発見するという活動が設定されております。体験を通して、子どもたちは気付いた点や素朴な疑問を話し合い、金属はどのように温まるのかという問題を見出すことができるという特長があります。

啓林館4年生140ページについて、見開きで写真資料が掲載されております。ご覧いただいているのはお店の写真となりますが、フライパンを使って調理をしている姿を見たことがある、実際に調理をしたことがあるといった、生活経験に関わるような印象的な写真ページとなりますが、ここから生活経験を思い出したりしながら話し合い、問題を見出していくという特長となっております。話し合いの後は、実験も行いますので、実際の活動に繋がっていくものとなります。

教出4年生144ページについては、バーベキューで金属の棒を刺す、焼くといった、子どもの生活経験に関わるような写真や資料が提示されております。この写真から経験を想起して、見つけようという活動に繋がる流れとなっております。

○**道尻委員** わかりました。ありがとうございました。

○**檜田教育長** 他はいかがでしょうか。

○**阿部委員** 先ほど物に触れる機会を増やすことが大事であり、3者とも身近な物を題材にした実験を取り上げているというご説明をいただきましたが、全体的に通して物に触れることが多い教科書に特長などあれば教えてください。

○**教科用図書選定審議会委員** 活動と写真という導入の違いによるものを説明しましたが、3者とも活動から入る単元があることは同様となります。

ただ、先ほど紹介をしました「物の温まり方」の単元もそうですが、東書では必ずレッツトライが冒頭に位置づいております。教師が授業で使う際には、実際にやってみよう、身近なものでやってみようという授業の作り方が発想できるのではないかと思います。

また、啓林館4年生90・91「体の作り」では、印象的な写真が使われており、114・115ページでは実際に活動するというページもありますが、東書との違いは、リード文頭で「こういう活動をやってみよう」という促しの文が入っております。小さな違いではありますが、活動としてはっきりと位置づいているかいないかでは、授業の進め方に違いが出てくるものと考えております。

○**阿部委員** わかりました。ありがとうございました。

○**檜田教育長** 他はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○**檜田教育長** 科学的リテラシーの育成といった観点から、子どもたちの日常の疑問や活動など、普段、何気ないものを改めて教科として意識させた上で、子どもたちから生まれてきた疑問、そうした部分を課題探究的に捉え、学んでいけるような作りについて、各者それぞれ特長があるという説明がありました。そうした点も含めながら、あるいは北海道と関わりのある部分ということで前回3者を選ばせていただきましたが、これらの観点を中心に、札幌の子どもたちにとって、どの教科書がより望ましいかということについて、各委員からのご意見をお願いいたします。

○道尻委員 先ほどご説明があったとおり、問題を見つけ、課題を考え、確かめる、あるいは疑問を話し合い、より妥当な考えに近づくというプロセスは、各者ともに工夫をされておりますので、3者ともに大きな差異は無いかと考えております。

ただ、科学的リテラシーの点からしますと、東書には、プロット図にて視覚的な表現をしており、他者には無い特長であることは興味深いものと思っております。そのほか、物の溶ける量の変化についても、工夫がされていると考えております。

また、東書に限った話ではありませんが、札幌市に関係する内容が豊富に取り上げられていることも、生活との関りでいかに興味・関心をもって考えるという事に適しているということで、札幌市の教科書としては「東書」が良いのではないかと考えます。

○佐藤委員 先ほども触れましたが、理数系の教科書においては、まとめ、法則、決まりといった部分の表記の仕方に注目して見ておりました。各社の教科書を比較したところ、まとめや結論の記載の方法が実に多種多様で、それぞれに特長があると思いました。

例えば、道尻委員が仰っていた「物の溶け方」について、各者ともに食塩やミョウバンを使っている点では変わりませんが、東書は、「物が水に溶ける量には限りがあります。」といったまとめ方、教出は、「食塩やミョウバンが水に溶ける量には限度がある。」といった、実際に使用した事例によるまとめ方、啓林館は、「決まった量の水に溶ける物の量には限りがある。」といったまとめ方となっております。これらを分類しますと、東書と啓林館は抽象度が高く、教出は事例に特化したものとなっております。

これは私の考えとなりますが、使用した事例に特化してしまうと、その事例についての個別学習になってしまい、他に一般化されないことから、抽象度が高いまとめの方が良いと考えております。

そういった観点で見ますと、東書もしくは啓林館のいずれかとなりますが、啓林館は非常に正確性を期するがために、先ほどの表現のような、小学生には理解しづらいものになっていると思いました。また、文字面や色遣いが他の記載に埋没してしまうという印象を受けました。対して、東書については、単元で一番重要な部分がわかりやすく、かつ前面に出ていることから、私は「東書」を推薦します。

○石井委員 私も「東書」が良いかと考えております。レッツトライでは、身近な物を扱うことで、子ども自身の体験から問題や課題を見出していくことや、プロット図を使用していることで、表と違い、変化の規則性を傾向として捉えることができることは、非常に大事なのではないかなと思っております。

また、各単元後にある「世界探検部」について、例えば、6年生118「ジオパークへ行こう」では、火山や自身を学んだ後に、ジオパークを訪問して地層を見るという活動となっており、災害に対して防災意識を高めるだけでなく、自然に対して前向きに目を向けていると感じ、非常に好感を持ちました。

○阿部委員 私も「東書」が良いかと考えております。課題探究的な学習活動の取扱いという点においては、3者に大きな差異はありませんでしたが、東書は、レッツトライから始まり、最後に「確かめよう」というまとめのページがあること、その中間には、「問題とまとめ、活動」という帯があり、一連の流れが分かりやすい表現方法であること、他者よりも版が大きいことから、文字やイラストなどが大きく見やすいという点から良いのではないかと思います。

そのほかにも、科学的リテラシーの部分では、プロット図を用いて結果を示していることも評価のポイントとなっております。

○中野委員 私は、全般的な説明や抽象的な説明を含めて、東書か啓林館のいずれか良いのではないかと考えておりました。そのうち、どちらかということ考えた時に、印象的なテーマについて、どちらが多く取り上げられているかを注目しました。東書6年生89ページには、衛星かぐやが撮影した月の表と裏の詳細な形が掲載されており、こういったものは他者には無く、非常にインプレッシブなものを紹介されていると思いました。

また、6年生137ページでは、札幌ラーメンのこしの強さについて掲載されており、子どもたちの興味・関心を引くところではありますので、「東書」が良いのではと考えました。

○檜田教育長 理科が好きだという子どもたちは、札幌にも多いと思うのですが、子どもたちの疑問を上手に捉えながら、課題設定をできているという点でいきますと、東書がそうした工夫がみられるかなと思いましたので、今回、理科については「東書」を選定することとしてよろしいでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○**檜田教育長** それでは、理科につきましては、「東書」を選定することといたします。

○**檜田教育長** ここで休憩といたします。再開は14時半とし、家庭から審議することといたします。

(休憩)

○**檜田教育長** それでは、審議を再開したいと思います。

○**檜田教育長** 次は家庭について審議を行います。家庭については、7月24日の審議に引き続きまして、「東書」「開隆堂」の2者から、1者を選定してまいります。前回からの審議を踏まえまして、各委員からのご質問がございましたら、おねがいたします。

○**道尻委員** 調査研究項目の中に札幌らしさを活かした学習活動の推進ということが挙がっております。この点の特長を前回も説明頂いているかと思いますが、改めて重要な部分を教えていただきたいと思います。

○**教科用図書選定審議会委員** 札幌市らしさを活かした学習活動の推進ということで、環境という視点から述べさせていただきますと、東書36・37ページをご覧ください。ここには、持続可能な社会へ物やお金の使い方において、生活の中での買い物などの消費行動から自然や環境に配慮した生活を考えていく流れになっております。

それに対しまして、開隆堂132ページをご覧ください。ここには持続可能な社会のためという題材が設けられていることが大きな特長となります。5・6年生の学習の終わりに、これまでの学習を活かして自分の生活と身近な環境の関係に気づくことができる構成となっており、よりよい生活の仕方を工夫する学習が可能の内容となっているのが話題となりました。また、79ページをご覧ください。ここには、右上のところに、1日ひとつのエコ宣言や省エネルギー行動の表について、札幌のゼロカーボン都市の目指しているという取り組みと関連づけることが可能であるという意見が小委員会では出ておりました。

○道尻委員 わかりました。ありがとうございました。

○檜田教育長 他はいかがでしょうか。

○阿部委員 開隆堂の巻末の140ページから152ページの生活の中のプログラミングという特集のようなものが組まれておりますが、東書のほうにもあるのでしょうか。

○教科用図書選定審議会委員 小委員会のほうではプログラミングの部分はあまり話題にならなかったのですが、東書146・147ページでは、暮らしの中のプログラミングということで記載はされております。ただ、小学校におけるプログラミング教育の大きな狙いは、身近な生活でコンピューターが活動されていることや問題解決に必要な手順があるということに気づくということとなっております。

自分が意図する一連の活動を表現するためにどのような動きが必要で、そのためにはどのような組み合わせが必要であるか、どのように改善していけばいいのかなど、より意図した活動に近づけていくために論理的に考えていくことを育成していくということが目的となっております。

○阿部委員 わかりました。ありがとうございました。

○檜田教育長 他はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

○檜田教育長 家庭につきましても、前回から委員の皆さんから色々質問を頂き、調査研究項目の中にも札幌らしいあるいは北海道の関連ということもありましたが、家庭生活をよりよくしていくために、自分がどういう風にかかわっていくのかとか身近な環境を少し意識したりする部分、札幌市が大事にしている課題探求的な学習の部分がどうかということで、特長・違いがあったという風に思います。それらの観点を踏まえて、札幌の子どもたちにとって、どの教科書が望ましいか、ご意見を頂ければと思います。いかがでしょうか。

○道尻委員 「開隆堂」のほうが良いのではとないかと思います。まず、課題探求型の学習の観点からみると、参考意見の中に開隆堂の学習の目当てという各

単元の冒頭の記載の部分の評価する意見があります。東書も同様に学習の流れが各単元の前に示されてはいますが、両者を見比べると、開隆堂の学習の目当ての方がより具体的に書かれており、課題を見つけて、見直しをもって学習に取り組みやすい、そのようなつくりになっているように思います。

先ほどご説明いただきましたが、持続可能な社会のためにという題材が設けられており、自分の生活と身近な環境の問題について考えるという、よりよい生活に向けた学習を行い、より実生活につなげていくということで、有効ではないかと考えます。このあたりから2者を考えると開隆堂かなと思います。

○阿部委員 私も「開隆堂」が良いかと考えております。まず、課題探求的な学習の取り扱いという点で、前回も話題になりましたが、なぜというところからはいり、課題を発見して、振り返っていくという、そのような構成になっていることと、單元ごとに学習の目当てが掲載されている構成になっていることも共感のポイントです。札幌らしさという点でも、先ほどもご説明がありましたとおり、持続可能な社会のためにというところもそうですが、最近だと企業側もゼロカーボンを目指していることから、札幌市の取り組みに関連付けられるという点も非常に共感しております。

また、細かいところですが、136・137ページの2年間の学習を中学校につなげようというページも開隆堂の特長となっているところもポイントとなっております。

○石井委員 開隆堂がいいかなと考えております。今、阿部委員が仰ったように、「なぜ○○なんだろう」という問いがすごく良いなと思いました。自分の生活を振り返ることで、身近なところから課題を見つけて、生活をより良くしようとする意欲や意識を高めることができるのではないかなと思いました。

また、東書はイラストが多く、開隆堂は実際の写真が多く使用されているように思います。例えば、青菜のお浸しの調理実習の部分は、開隆堂14・15ページ、東京書籍22・23ページになりますが、開隆堂は盛り付けるところまで写真が載っております。普段の料理は盛り付けも大切ですので、例を提示していただけるのはありがたいと思いました。ゆで卵の湯で時間による変化に関する部分も、開隆堂17ページ・東書25ページに載っておりますが、開隆堂の方が非常に細かいという印象を受けております。また、ミシンの写真に関して、開隆堂38ページ、東書68ページにあります。開隆堂は男女の写真で、東書は女子の写真が使用されており、そういった点でも開隆堂のほうに好感を持っており

ます。

○中野委員 私も「開隆堂」が良いかと思います。北海道にゆかりにある題材の写真が多いということ、なぜなんだろうなんだろうというところ、また、一般的に写真を多く使って見やすいという思いました。

○佐藤委員 両者とも内容的には、本質的にほぼ同じだと思っておりますが、ただ、各委員ご指摘のように開隆堂の問いかけ方が特長的で、「なぜ針と糸で縫うのだろう」という表現があります。最初にこれを見たとき、何を言っているのだろうと思いましたが、「なぜ食事をするのだろう」「なぜ服を着るのだろう」という、我々が当たり前だと思っているところの事柄について、「なぜ」と問うことにより、興味、関心、探求心を喚起しているのではないかと考え、特長的であると感じました。

また、開隆堂はページ中ほどに流れが帯になって、明示されており、ここが非常に見やすく、手順がわかりやすいなと思いました。

以上で、私も「開隆堂」が良いのではないかと考えました。

○檜田教育長 各委員の皆さん全員が開隆堂ということでしたが、私も子どもたちが家庭科で学ぶのは、ただ調理実習を経験することだけでなく、より工夫して、自分なりに頭をつかって考えるということがとても大事だと思います。そういう部分では先ほど石井委員からもありましたが、開隆堂のほうが、少し子どもたちのそうした工夫やそのようなゴールが見やすいような作りになっていたかと思えます。

家庭については、「開隆堂」を選定することしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○檜田教育長 それでは、家庭については、「開隆堂」を選定することといたします。

○檜田教育長 次は保健について審議を行います。保健について、7月24日の審議において、「東書」「大日本」「大修館」の3者を、選定の候補といたしましたので、この3者から1者を選定してまいりたいと思います。

まず、前回の審議を踏まえまして、その後、各委員からご質問がございました

ら、お伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○道尻委員 課題探究的な学習活動という調査研究項目の中にありまして、保健という科目に、身近な生活の中からどのように主体的に課題を見つけ、興味・関心を持っていくのか、という点で、各者の特長を教えていただければと思います。

○教科用図書選定審議会委員 東書5・6年生の13ページ「心の健康」をご覧ください。全国の5年生を対象にした独自の調査から、どんなことで悩んでいるかという吹き出しがあります。小委員会では話題になったのは、「特にない」が41.8%で、これは全国的な傾向、課題ではありますが、本單元では悩みや不安はないという子達が多という実態から、でも実は、という自覚を促す、という部分については非常に特長的なページです。このような写真から気づきを促している特長があります。

大日本の特長は折込を使うというところですが、画面をご覧頂きたいのですが、「健康ってなんだろう」というところを隠せるようになっており、見えないようにすることで、課題発見を促すという仕掛けがあるのが特長的です。

大修館は全般的にいえることではありませんが、課題を掴もうというのが全單元そして、全項目・毎時間にあります。本当に子どもにとって身近な場面を取り上げて、ここでいうと、発表前でドキドキしている姿、次走る順番が来る前に、もうすぐ自分の番だ。まさに身近な場面からありうることかと思えます。次のページも、「ああわかんなくなってきた」、「怒らせた」など、もちろん他者にもこのような場面を取り上げているものもありますが、毎時間ごとに身近なところから課題発見を促すということが、大修館の特長です。

小委員会では課題発見はもちろんですが、経験の浅い若い先生方にとっても、課題探求的な学習を充実させる視点ではいい仕掛けではないかと話題になりました。

○道尻委員 わかりました。ありがとうございました。

○檜田教育長 他はいかがでしょう。よろしいでしょうか。

○檜田教育長 前回は話題になりましたが、課題探求的な部分や現代的な課題、L B G T Qなどの取り上げ方もそれぞれ特色があります。また、運動と健康、こ

れから子どもたちが生きていく上で、とても大事な部分が子どもたちの身近な問題として考えられているというところに、各者に特長があるということでしたが、これらを踏まえて、札幌の子どもたちにとって、3者の中からどの教科書が望ましいのかという点で、委員の皆さんからご意見を頂戴したいと思えます。

○中野委員 前回もお話をしましたが、より正確に医学的な項目を説明しているかという論点でいいますと、「大修館」を選ぶべきかと思えます。

まず、3・4年生の17ページのところのとおり、最近はスマホを長く使って、寝れないなどの色々な問題が生じております。この右下に、寝る1時間前から使わないという具体的な時間を指定しておりますが、これは東書も同様に1時間前と記載されております。

一方で、大日本は夜遅くまで使わないという曖昧な表現が使われておりました。スマートフォンからくる光・ブルーライトは不眠につながるということがわかっておりますので、基本的には1時間前から極力光を浴びないということが推奨されております。遅くまで見ないという曖昧な表現だと、5分前なのか、10分前なのかとわからなくなることから、具体的な基準を示しているということが正しい記載だと思います。

次に大修館5・6年生16ページに呼吸法があります。呼吸法については、どの教科書も同じように書いてありますが、実は深呼吸するということだけでは、リラックスできません。それでは不安がさがらないことがわかっており、正しくは吐くときにゆっくり吐くというのが一番リラックスするということがわかっております。これは今のストレスマネジメントで推奨されるやり方です。大修館は息を吐きながら、リラックスと唱えるということが記載されておりますが、リラックスと心の中で唱えるとゆっくり吐くことになります。ここは、他の教科書では、深呼吸・腹式呼吸にしましょうの説明だけに留まっているので、ゆっくり吐くと正確に書いているのは、大修館だけで、ここは正確な記載だと思っております。

また、大修館の17ページに、筋肉をほぐす運動と体の力を抜く運動と2つ書いてありますが、筋肉をほぐすというのは、基本的にはストレッチであり、体の力を抜くということは、筋弛緩法となります。体の力を抜くときは、ただ肩の力を抜けと言っても抜けません。一旦力を強く入れてから、抜くという作業で力が抜けますが、筋弛緩法はストレスを下げる効果があることがわかっております。他の教科書にも筋弛緩法が書いてありますが、大修館は、顔と肩の2か所が書か

れております。大日本は肩だけで、東書は肩と指の2か所が書かれております。ストレッチと筋弛緩の両方が書かれている、かつ、筋弛緩の項目が多いのは大修館ということになります。そのような点においても正確な部分となります。ストレッチは関節の柔軟性を増すためにあり、筋弛緩はリラックス効果を期待して行うもののため、両方とも記載されているという点で正確に書かれているということがわかりました。

さらに、大修館56ページの歯磨きの話においては、おやつ後も早く磨きましょうと、3者とも記載されているのが特長的ですが、最近の歯磨きについては、すべての歯と歯の間からカスを取り出すこと現実的にはできないと言われております。カスが残ることから、虫歯予防としてフッ素が入っている歯磨き粉で磨くのが一番効果的であると言われており、激しく、強く書き出すように磨くということは推奨されておられません。歯を磨くときはあまり強く磨かなくていいとなっていますが、57ページの専門家にインタビューのところ、ごしごし強く磨かなくていい、軽い力で磨いていいと正確に書かれているのは大修館だけです。細かいところはまだありますが、全般的に配慮があり、より正確であることから、大修館が望ましいという印象があります。

○阿部委員 課題探求的な学習活動の取り扱いというところで、その中でも大修館は大きな特長があるということで、身近な生活の中での経験から健康課題を見つけていくということや若い先生にもやりやすい内容になっているとのお話がありましたので、課題探求的な学習活動の取り扱いという意味では大修館が良いと感じております。

また、教科書の中でも、話し合おう、考えよう、調べよう、やってみようという4つの活動が非常にわかりやく表現できているというところにも共感しております。さらに、運動と健康の関連について、前回では、大日本の1人でストレッチができるという見開きページの部分に私は興味があり、高く評価をさせて頂いたところでしたが、他の教科書会社にも見開きまでの大きさではないけれども、そこと似たような表現されているとのことでしたので、他の教科書も見てみたところ、大修館の体育の窓というコラムが要所要所にありました。それを見ると非常にわかりやすく、納得がいくような書き方で、そこにすごくポイントがあったと思いました。それらの2つの観点から、私は「大修館」が良いかと考えます。

○道尻委員 今、2人の大修館の特長について述べて頂いたところに、私も同感

いたします。あえて、付け加えるとするのであれば、運動をカラダづくりの面から位置づけること、生涯を通じた心や体の健康と関連付けて学ぶ、さらに進めていく、習慣化するという大切さが示されているところが共感でき、大修館が良いのではないかと思います。

○石井委員 大修館が良いのではないかと考えております。課題探求という点からも、身近な生活から課題を見つけるという観点で大修館が良いのではないかと思います。東書とも迷いましたが、もっと学びを広げよう・深めようの大修館のコーナーの内容が非常に良く、参考になると思いました。内容も子どもに沿った内容が多いと感じました。例えば、5年生の20ページの相談名人になろうというところは、他者では相談するときの話し方が載っておりますが、大修館は友達の相談を受け止めるときの話し方ということころまで載っており、非常に好感を持っております。

また、69ページのスマホ・ゲーム依存の内容は他者の場合はアルコールと薬物と一緒に載っており、依存症の部分が小学生には遠い話なのかな、と思いました。大修館は今の子どもたちに一番近い問題のスマホ・ゲーム依存がしっかりと載っており、より今の子どもたちに寄り添った内容が充実しているのではないかと思います。

○佐藤委員 私も、「大修館」が良いかと考えます。

○檜田教育長 それでは、皆様のご意見は大修館ということで、子どもたちにとって、1番学びとしていいのではないかとということです、保健については大修館を選定することしたいと思います。よろしいでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○檜田教育長 それでは、保健につきましては、「大修館」を選定することといたします。

○檜田教育長 次は、道徳について審議を行います。道徳については、7月24日の審議において、「光村」「光文」の2者を選定の候補といたしましたので、この2者から1者を選定いたします

○**檜田教育長** まず、前回の審議を踏まえまして、さらに、各委員からご質問がございましたら、お願いいたします。

○**道尻委員** 自身あるいは他者との関りの中で、命を大切にすることや生命を尊重するという心を育むという観点から、2者の特長を教えてください。

○**教科用図書選定審議会委員** 命を大切にする、他者を思いやる心という点につきましても、子どもが自分を大切に思う、自尊感情を持つといったことや、生命尊重の心を育むことが可能な内容であるかという観点で説明いたします。

光村は、教材を先に示し、その後にコラムを併せて学習するユニットというものが設定されており、コラムでは、教材分で学んだ主題やテーマに関わる具体的な場面が取り上げ、自分の意見をはっきり言うことや、相手の気持ちを考えることの大切さについて考えることが可能な内容となっております。また、「いじめを生まない心」を全学年に設定しております。

例えば、1年生48ページについては、先ほど説明しましたユニットの最初のページとなります。ユニットの初めには、子どもたちへの投げ掛けがあり、また、コラムでは、具体的な日常場面を取り上げることで、子どもたちが自分自身の生活を振り返って考えることができる内容となっております。

続いて、光文1年生116ページをご覧ください。こちらは、子どもたちが自分の出来ることに丸を付ける活動となっております、自分自身の良いところに自然と気付くことが可能な内容となっております。ここで大事なものは、丸がたくさん付くことや他人と丸の数の多寡を比較することではなく、自分の良いところを理解し、自尊感情を高めることとなります。

さらに1・2年生では、学年独自の主題として「へこんでも立ち直る」が設定されており、低学年においては特に自尊感情を高めることが可能な内容となっていることが特長です。

○**道尻委員** わかりました。ありがとうございました。

○**檜田教育長** 他はいかがでしょうか。

○**石井委員** 現代の子どもたちにとって、道徳は現実世界だけでなく、インターネット上でも考えることが大切だと考えておりますが、情報モラルという点について2者に違いがあれば教えてください。

○**教科用図書選定審議会委員** 2者ともに、現代的な課題に対して工夫をされており、情報モラルについても、大切に扱われていると小委員会内で話題となりました。

ただ、各者のそれぞれの特長はありました。光村については、先ほど説明しましたユニットが、「情報と向き合う」という内容で全学年まで組まれております。なお、スマートフォンに関する取り扱いについては、3年生から6年生までとなっており、1年生については、内容として身近な生活を取り上げたものとなっております。例えば、6年生87ページをご覧ください。ここでは、スマートフォンの教材を取り扱い、コラムで自分の生活を振り返ることなどが可能な内容となっております。

光文についても、全学年に題材が設けられており、情報に関わるコラムも2ページ特設されているほか、1年生からスマートフォンなどの題材を取り扱っており、早い段階から情報モラルについて学ぶことが可能な内容となっております。例えば、1年生42ページをご覧くださいと、スマートフォンやゲーム機を使う時という題材で、具体的な場面が示され、子どもたちが情報モラルについて考えることが可能な内容となっております、最後に情報モラルの見開きのページという構成となっております。

○**石井委員** わかりました。ありがとうございました。

○**檜田教育長** 他はいかがでしょうか。

○**阿部委員** 光村のいじめというテーマに対して、光文は1年生116ページで、自分の良いところを見つけてみようという題材が取り上げられています。が、自分に焦点があてられることで、話のテーマが限定されてしまうのではという見方もできると思うのですが、その点について考えをお聞かせください。

○**教科用図書選定審議会委員** 委員が仰るように、このページは自分の良いところを見つけようというテーマで学習していくこととなります。明確な回答となっているかわかりませんが、自分自身の良さに気付いた子どもたちは、ページの最後にあるとおり、友達にもたくさん良いところがある、一人一人良いところは違うという着地点に落ち着いていく内容となっております。自分の良いところだけを見出すことでは、いじめ防止には繋がらず、他者と協働する場も

作ること、お互い大切にしていこうという展開になると考えております。

○阿部委員 わかりました。ありがとうございました。

○檜田教育長 他はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

○檜田教育長 道徳については、特別の教科ということで、数値的なものではなく、子どもたち自身が自分の良さや他者の良さに気が付くことが大事な部分だということですが、そうした豊かな心を育む、あるいは自分の中で色々な問題点に気が付いて、寛容と言いますか、少しずつ心を開いて、自分の中で考えていく、そうした部分で札幌の子どもたちにとって、どの教科書がより望ましいかということについて、各委員からのご意見をお願いいたします。

○道尻委員 2者ともに、それぞれの素材について工夫して考えて、手掛かりが示されているわけですが、示されている内容をつぶさに見た時に、示されている内容が適切だと感じるのは「光村」かと感じております。ほかにも、情報社会で、いじめの問題も含めて、色々な情報を取り扱うことの大切さ、モラルや肖像権といったような権利についても学んで考える、さらにそれを実際の生活に繋げるという意味でも、光村というのが今の私の考えです。

○石井委員 2者ともに良いものでありますので、非常に悩んでおりますが、課題探究の面、情報の面、多様性の面から、どちらかというところ「光文」が良いかと考えます。課題探究については、問いの内容がより実生活に落とし込みやすいと思えました。また、「手品師」という題材を比較しますと、光村6年生92ページ、光文は5年生98ページにそれぞれ掲載されており、最後に問いにおいて、光村は、「誠実に生きるということとはどんなことですか」という問いに対し、光文は、「誠実に生きることを考えた上で、どんなところが自分に活かせるのか考えましょう」という、より自身への落とし込みができ、日常で考えたことや学んだことを活かしていける機会を与えることができるのではないかと考えております。

また、現在の子どもたちにとって、インターネットの世界は現実世界と同じくらい大切にしていると思うのですが、ネット上でのモラルや活用を考える時間というのはとても大切だと思っております。学校からは、家族で情報モラルについて話し合うよう求められることがありますが、保護者としては、一定の

指針を学校で示していただいた上で、話し合いたいという思いがあります。そういう点では、光文は1年生の段階で教科書に掲載しており、家庭でも話しやすいのではないかと考えました。1年生から教えるのは早すぎるのではないかとされるかもしれませんが、現在は、1年生からスマートフォンを持つ子どもが多く、低学年からSNSを使用することもあり、ネット犯罪に巻き込まれる可能性もありますので、小さいうちから学ぶことができるのは良いことだと考えております。

そのほか、光村では、6年生92ページ「情報と向き合う」に、気を付けるべきことを考える題材があり、対して、光文では、5年生94ページ「約束」に、スマートフォンが原因で友達とトラブルになるという、今の子どもたちが現実で起こりうる内容が掲載されており、また、6年生78ページでは、危険性を理解した上で、人との交流、災害時、情報交換、クラウドファンディングなどの有効活用方法を示しているのが、現実的で良いのではないかと思います。

最後に、多様性については、1年生「やさいむらのこどもたち」という題材が、個人的に好きでして、この授業参観や視察をしてみたいなと思いながら拝見させていただきました。また、光文に掲載されているレジリエンスは、今の時代に必要なものであり、重点主題の「へこんでも立ち直る」力は、他者からの評価を根拠とするのではなく、自己肯定感にも繋がる内容ですし、自信を持って、前向きに人生を歩いて行けるような意識を付けることができるのではないかと考えます。

ただ、個人的な好みで言いますと、レイアウトは光村の方が良いと思いました。

○阿部委員 私も、石井委員と同様に悩んでいるところではありますが、課題探究的な学習の取扱いについて、光文がレジリエンスを掲載したことに感銘を受けました。現代社会の中でも、レジリエンスをテーマした研修が行われるくらい注目されているということもありますし、重点主題に「へこんでも立ち直る」を1年生に設定したことは、素晴らしいなと思っております。

一方で、光村の教材とコラムをセットにして、最後に「こんなことをしていない？」といった、自身に置き換えて考えるというユニットというのは、学習を進める中で、子どもたちが腑に落ちる仕組みづくりをされていることから、課題探究という意味では、光村の方が一歩上を行っているのではないかと思います。

次に、自身や他者の生命を尊重する心という点で、光村の「初めての見取り」については、これから経験するであろう身近なテーマである祖父母の見取りをテーマに持ってきたということからも、迷いつつも最終的には光村という結論になりました。

○中野委員 非常に難しいところではありますが、光村は安定した作りで、光文はやや攻め込んだ内容ではないかと思っております。全般的な教科書のイラストや構成を考えると、光村が良いかと思いますが、今日的な課題や時代の一步先を行くということを考えると、光文も良いのかなと思っております。これまでの委員の発言から、光村が2票、光文が1票となっておりますので、議論のためにも、私は「光文」とさせていただきます。

○佐藤委員 質問になりますが、光文の方では、各学年の表紙の次に「へこんでも立ち直る」というテーマを掲げておりますが、そのテーマに沿う題材は全学年にあるのかわからないんですけれども、いかがでしょうか。

○教科用図書選定審議会委員 全学年に「へこんでも立ち直る」というコラムが掲載されており、例えば、1年生116ページをご覧ください。特設ページの前に、必ずレジリエンスに関わる教材が配置されております。他にも、5年生148ページをご覧ください。こちらでは、右下に小さい矢印が付いていて、このページの前にある「4本の木」という学習内容と関連付けて学ぶといった構成となっております。

○佐藤委員 レジリエンスに関わる教材と、その説明が全学年に渡って掲載されているということですね。わかりました。ありがとうございました。

光文に掲載されているような教材は、光村には見られるのでしょうか。

○教科用図書選定審議会委員 レジリエンスに近い道徳的価値や内容となりますと、個性の伸長というのが挙げられます。この個性の伸長というのは、各者で扱われており、光村でも当然扱っておりますが、光文のような教材を前面に出しているところは、小委員会では見ることはできませんでした。

○佐藤委員 私が見たところでは、冒頭の学び方が丁寧であるところは共通しておりますし、考えさせる教材、深みのある教材というのが比較的多くみられ

るところも両者の特長であり、また、題材の発問も有効で、コラムも良いというところで、光村と光文はいずれも差が無いものだと思います。

先ほど、石井委員が仰っていたことと、今、伺ったところによれば、レジリエンスという点において、光文に少し加点があるのかなというところでしょうか。

○石井委員 私も質問をしたいのですが、多様性について、両者比較した際に違いがあれば教えてください。

○教科用図書選定審議会委員 前回にも話題となりましたLGBTQのことを補足させていただきます。光文6年生98ページをご覧ください。多様性については、各者で大切に扱われておりますが、そこを一步踏み込んで、男女の性別やLGBTQを取り扱っているのが特長です。MISIAさんのLGBTQの取組や、アフリカの貧困問題を取り上げており、さらに99ページには、男らしさ、女らしさといった性別による固定概念を無くすための題材として、制服が取り上げられているのが特長的かと思います。

○石井委員 わかりました。ありがとうございました。

多様性という点からも、私は「光文」が良いのではないかと考えました。光村では、1年生16ページ「おかあさんは料理上手」や、88ページ「おばあちゃん、ごはんをつくりにきてくれてありがとう」という題材について、若干ではありますけれども性別役割意識を感じる点もあり、気になりました。

○阿部委員 自分や他者の生命を尊重する心を育む学習活動の取扱いについて、光文「やさいむらのこどもたち」以外で、それらを学習できるページがあればご紹介いただけますでしょうか。個人的に、「やさいむらのこどもたち」に共感ができず、違うものがあれば拝見したいと思っております。

○教科用図書選定審議会委員 生命の尊重となりますと、特長的であると委員会で話題になったのは、光文5年生112ページ「光輝の告白」という題材で、子どもたちが身近に考えられること、生命ということを直接的に扱ってはおりませんが、「やさいむらのこどもたち」と関連づいていて、1年生のころから少しずついじめを許さないですとか、身近な人たちの命を大切にしようといったことが繋がっていると話題になりました。

○阿部委員 わかりました。ありがとうございました。

○檜田教育長 光村は現在も使用しており、光文はレジリエンスや多様性など、これまでよりも一歩踏み込んだと言いますか、時代の流れを先取りしたようなテーマを取り上げているはいるものの、2者ともに遜色はないところではありますが、どちらが良いかを改めましてご検討いただければと思います。

○檜田教育長 個人的な考えを言いますと、チャットGPTなど避けて通れない時代がやってくると考えています。その時になって困るよりは、早いうちから色々と学ぶことは良いことですし、道徳は特に価値観が様々ありますので、例えば、子どもが学校で学んだ後に、家庭で話題になるということが子どもたちにとって学びを豊かにすること考えますと、色々な話題性がある光文も良いのではないかと思うところですが、いかがでしょうか。

○佐藤委員 4年生の教科書を開いた際に、光村は挿絵などの教科書全体の雰囲気や大人受けする教科書で、小学生の子どもたちにとって、挿絵やフォントなど、難しく映っていないかなと思いました。

対して、公文は挿絵や写真が小学生に見やすい作りになっていると感じましたが、その点で小委員会内では話題にならなかったのでしょうか。

○教科用図書選定審議会委員 小委員会では、その点は話題にはなりませんでしたが、ただ、各者で同じ教材を扱っているものもありますので、比較すると、挿絵に力を入れているもの、文書に力を入れているものなど、様々工夫は見られましたが、大切なのは、教師がまず教材の特質を踏まえ、子どもたちに教える道徳的価値を明確にすることであると小委員会内では話が落ち着いたところだと思います。

○道尻委員 これ以上議論続けることを否定するわけではないのですが、各者に良さや特長があると思いますので、最終的には票の多い方で決めていただくということで良いかと考えます。

○阿部委員 私も同感です。これ以上は議論をしたとしても、お互いに譲れない部分はあると思います。光文には、子どもの時からレジリエンスが学べるという特長があり、また、光文が選ばれたとしても、授業の方向性が変わるわけではないと思いますので、良いかと思えます。

○**檜田教育長** これまで光村を通して子どもたちの道徳性を育ててまいりましたが、今回は、光文が札幌の子どもたちにとっても有益ではないかという教育委員会内での議論を踏まえ、光文を使って、レジリエンス、多様性などの道徳性を育み、その成果と課題を踏まえながら、また4年後に検討いただきたいと思いをします。

それでは、道徳につきましては、光文を選定することとしてよろしいでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○**檜田教育長** それでは、道徳につきましては、「光文」を選定することといたします。

○**檜田教育長** それでは、小学校最後となりますが、外国語について審議を行います。外国語については、7月24日の審議において、「東書」「開隆堂」の2者を、選定の候補といたしましたので、この2者から1者を選定いたします。

○**檜田教育長** まず、前回の審議を踏まえまして、さらに、各委員からご質問がございましたら、お願いいたします。

○**檜田教育長** 正式な発表はまだと思いますが、全国学力学習状況調査の結果が出て、話すことの正解率が低いなどありました。改めて札幌の現状や、全国的な傾向も踏まえた今回の結果について、教科書を選定する上でどのように考えていけばよいか、現時点でわかることがあれば教えていただけないでしょうか。

○**教科用図書選定審議会委員** 全国学力学習状況調査につきましては、中学校の結果となりますが、その前段階である小学校において、いかに英語を学習するかが改めて大切であると考え、教科書採択と絡めながら、調査の結果を見ておりました。

外国語は、四技能五領域という言葉が使われており、バランスよく学習することを求められており、また、国際化と言われている中で、例えば英語で尋ねられた際、即興で答えることができないといったことから、札幌市がこれから力を入れなければならないこととして、今回の全国結果と同様に、話すことややり取り

であると感じております。

○**檜田教育長** わかりました。ありがとうございました。

○**檜田教育長** 他はいかがでしょうか。

○**道尻委員** 主体的に小学校の内から外国語を学ぶことを考える、あるいは興味を持つという点で、2者の特長はあるのでしょうか。

○**教科用図書選定審議会委員** 子どもたち同士、もしくは子どもと教師でやり取りをするという場面は多くありますが、その練習をしていく上で特長的なのは、開隆堂5年生10・11ページ「クラスルーム・イングリッシュ」です。特に、11ページには、授業中に友達とやり取りをする際に、使いやすい表現が一覧に掲載されていますので、こちらを使って子どもたち同士でのやり取りの学習を進めることが可能となっており、また、各単元で言語活動の場面が掲載されておりますが、例えば、5年生19ページ「アクティビティツール」では、子どもたち同士のやり取りを膨らませる、もしくはより長く行えるように、「レッツセイイット」というコーナーが設けられており、me tooと同意をすることで、会話を深めことや、長く繋げることのヒントが掲載されております。

一方、東書の特長としては、別冊のMy Picture Dictionaryを開いてすぐに、英語を使って会話を広げようという細かな表現がたくさん掲載されております。会話を始める際の挨拶の仕方、相槌を打つこと、質問を聞き取れなかった場合の聞き返し方など、やり取りを膨らませる表現が豊富にあり、教科書を開きながら、併せて別冊で確認できることは、大きな特長であると考えております。

○**道尻委員** わかりました。ありがとうございました。

○**檜田教育長** 他はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

○**檜田教育長** それでは、外国語については、札幌市の課題である話すことややり取りの部分と、課題探究的に、自ら積極的に取り組める教科書をとということで、札幌の子どもたちにとって、どの教科書がより望ましいかということについて、各委員からのご意見をお願いいたします。

○**佐藤委員** 小学校英語については、この4年間、東書を使ってきましたが、今

回の学力テストの結果を拝見しますと、札幌市の英語教育は、小学校段階から成功しているように見受けられましたので、引き続き同じ教科書を使って、さらに小学校段階の英語教育の基盤を確立いただきたいということからも、「東書」が良いかと考えます。

○中野委員 2者を比較したときに、掲載されている内容が実は似たようなものであると見受けられること、現在の流れを継続させることを考えると、「東書」が良いかと考えます。

○石井委員 私も「東書」が良いのではないかと考えています。まず、言語活動の充実ということで、話すこと、やり取りの活動が多いこと、何のために学習するのかという視点がはっきりと書かれている点が分かりやすいなと思いました。また、別冊に関しては、開隆堂と比較して、会話表現なども掲載されていることから活用ができること、書き込めるところも多く、様々な言語活動の場面で、子どもたちが自分の辞書を作るような活動もできるのではないかと考えております。

○阿部委員 私も「東書」が良いのではないかと考えています。石井委員も仰っていましたが、活動目標と、何のため学習するのかという点で、課題を探究するきっかけづくりというところにおいては東書の方が上回っていると考えました。それ以外の点に関しては、2者に大きな差異は感じられませんでした。

○道尻委員 皆さんが挙げられた点は私も同感です。活動目標が記されていて、考えの視点がはっきりしているというところ、あるいは書き込み欄が豊富で、書くことのトレーニングが積みやすいというところは学校意見でも評価されておりますので、「東書」が良いのではないかと考えます。

○檜田教育長 子どもたちの意欲が喚起されるようなひと工夫があること、これまで培ってきた部分をさらに生かしていくということからも、今回、英語については「東書」を選定することとしてよろしいでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○檜田教育長 それでは、英語につきましては、「東書」を選定することとい

たします。

○**檜田教育長** これでは小学校用、小学校と兼ねている義務教育学校前期課程用教科書のすべての科目の選定が終了しました。

○**檜田教育長** 次に、高等学校及び中等教育学校後期課程用の教科用図書について審議いたします。

○**檜田教育長** その前に、私から部会長に確認させていただきたいことがあります。

○**檜田教育長** 特定の組織や団体、あるいは、会社等から、働きかけや影響力の行使、圧力等はないということでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○**檜田教育長** それでは、高等学校部会の部会長、調査研究報告(答申)の説明をお願いいたします。

○**高等学校・中等教育学校後期課程部会部長** 高等学校・中等教育学校後期課程部会部長の札幌新川高等学校長 矢田と申します。私から、答申の主な内容につきまして御説明いたします。

なお、部会名については、「高等学校部会」、教科用図書については、「教科書」と省略して説明させていただきます。

高等学校では、義務教育である小学校や中学校が全ての学校で同一の教科書を使用するのは異なり、各学校に設置された保護者委員を必ず含む教科書選定委員会において、その学校に適した全ての教科・科目の使用希望教科書を学校ごとに選定しており、各校からは、それをまとめた「令和6年度教科用図書選定候補一覧表」の提出を受けております。

高等学校部会におきましては、教科ごとに小委員会を設け、提出された一覧表を基礎資料として、教科書編修趣意書及び教科書見本等を参考に、調査研究を行い、選定理由を精査し、まとめたものを、このたび、お手元にある報告書(答申)といたしました。

それでは、「答申」の高校1ページ「令和6年度使用教科用図書選定状況」を

ご覧ください。

表の右下黄色マーカーのとおり、選定点数の合計は、506点となっておりますが、その一段上に選定候補として2点、「日本語」の教科書が記載されております。これは、大通高校において、海外帰国生徒等枠などで入学した生徒が日本語を学ぶためのものですが、学校教育法附則第9条の規定により教科書目録以外の一般図書から選定したものととなりますので、今回は、教科書目録から延べ504点を選定候補とし、そのうち「新規」のものが132点となっております。

なお、令和6年度使用の教科書目録には、合計1,139点の教科書が掲載されております。

つづいて、高校59ページをご覧ください。答申の見方について、新川高校の表を例に御説明いたします。各校の一覧表の冒頭には、各校が定めている学校教育目標、重点目標、教育課程の編成方針を記載しており、これらを踏まえ、教科ごとに設定している学習指導上の重点項目については、各教科の冒頭にそれぞれ示しております。なお、この先、ポイントとなる部分には、黄色マーカーを施すとともに、赤字で記載をしております。

次に、各科目の記載ですが、一番左が科目名、左から2列目には、使用する学年を記載しておりますが、単位制の高校においては学年がないため、空欄としております。3列目は教科書名、4列目は発行者となります。5列目には、新規・継続の別を記載しており、「現代の国語」の「継2」とは、今回の採択を経て継続2年目の教科書となることを示しております。そして、一番右側には、その教科書が、各学校の学習指導上の重点項目に照らして、ふさわしい理由を明記しております。

それでは、答申の内容について、今回、私が理科小委員会の委員でもありますので、教科「理科」の中で、ほとんどの生徒が履修し、理科の基本的な概念や原理・法則を学ぶ科目である「物理基礎」について、各学校が生徒の能力や適性等を踏まえて設置した学校教育目標、教育課程の編成の方針、各教科の学習指導上の重点項目と使用希望教科書との整合性が分かるよう、新川高校と大通高校の2校を例にあげ、御説明します。

今ご覧いただいている資料の上から三段目の黄色マーカーを付けた「教育課程の編成の方針」の右側の赤字で記載されている部分をご覧ください。ここでは、「生徒一人一人の自己実現に向け、エリア別の学校設定科目や高大連携、小・中・高連携プログラム、特別活動等を主体的・対話的に取り組み、自立した学習者を育む学び」とし、(2)では、「課題発見・探究：自らの課題を正しく理解し、探究する中で発信・共有していく学び」と記載されております。

つづいて、高校 65 ページの上段の黄色マーカーを付けた、新川高校の理科の「学習指導上の重点項目」をご覧ください。重点項目の一つ目には、赤字で書かれているように「自然の事象・現象に対する関心を高め、科学的に探究する能力と態度を育てる。」とあり、これらのことから本校では、特に探究的な学びを通して、生徒が主体的・対話的に取り組み、自立した学習者を育てることに重点を置いていることがお分かりになると思います。

それでは、ここからは、前方のスクリーンをご覧ください。こちらの教科書は、本校で選定候補としている数研出版の「新編 物理基礎」の抜粋ですが、ご覧のとおり各章の最初の見開きページでは、学習内容に関連する興味付けとなる写真と、それに関連する問いかけで、生徒が自ら課題を設定し、解決しようとする動機付けをしています。

例えば、バスケットボールをシュートする場面に対して、投げ出されたボールにどのような力が働くかを問いかけることで、物理としての見方・考え方に関連付けて考えていくきっかけとしています。

また、スライド下の赤枠にある「学んだことを説明してみよう」は、それぞれの節の最後に配置され、学習内容を振り返り、生徒自身が自分の言葉でまとめることで、「何を理解できたのか」を確認できるようになっています。このことから選定理由の1つ目と2つ目に関わる「身近なことから興味・関心を持ち、基本的な概念や原理・法則の理解」を探究的に学べるよう学習内容が配列されています。

さらに、スライド左上の「Zoom」マークの付いた部分は、理解しづらいところや間違いやすい内容を分かりやすくまとめています。また、スライド右上の「発展」マークの付いた部分は、選定理由の2つ目の後半部分にある「深く物理を学習するのに適している」に当たる内容が掲載されています。このように、個々の生徒の興味や関心、理解度に応じて様々な工夫が施されていることから、生徒の個別最適な学びに対応している教科書となっております。

また、巻末には、誰もが知っている科学者であるガリレオ・ガリレイの足跡を基に、探究の一連の手順が掲載されています。スライドの赤線を引いた部分のように、Step 1 から Step 5 の手順ごとにポイントや注意点が簡潔に書かれ、先ほどの学習指導上の重点項目の1つ目にあるとおり「科学的に探究する能力と態度を育てる」、ことができる教科書となっております。

これらのことから、この教科書は、学習指導上の重点項目に照らし、新川高校が使用するものとして、ふさわしいものであると考えております。

次に、お手元の答申の高校 98 ページをご覧ください。こちらは、大通高校の

一覧表です。上から三段目の黄色マーカーを付けた「教育課程編成の方針」の右側に赤字で記載されていますが、(1)では「生徒の様々な学習状況に対応するため、多様な指導形態を設定する」、(3)では「生徒一人一人の能力に応じたきめ細やかな指導により、基礎・基本の定着を図る」としております。

つづいて、高校 102 ページ、黄色マーカーを付けた大通高校の理科の「学習指導上の重点項目」の右側をご覧ください。赤字で示している重点項目の一つ目には、「自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付ける」とあり、多様な生徒が在籍する同校では、基礎・基本の定着を図るとともに、探究に必要な技能を身に付けることに重点を置いていることがお分かりになると思います。

それでは、ここからは、前方のスクリーンをご覧ください。こちらの教科書は、大通高校で選定候補としている東京書籍の「新編 物理基礎」の抜粋です。ご覧のとおり、各所に分かりやすい図や写真が豊富に掲載されており、詳しい解説によって様々な自然現象を理解する構成となっていますが、先ほどの新川高校の選定候補の教科書と大きな違いは、右下の赤枠で囲んだ「この節のポイント」になります。

こちらのスライドは拡大したものとなります。新川高校の選定候補の教科書は、生徒自身が学習した内容を自分の言葉で説明する形式でしたが、大通高校の選定候補の教科書は簡潔にポイントを記載しているため、理解度に差があっても、学習内容の定着を図りやすい構成となっています。

さらに、こちらのスライドは章の最後のページになりますが、左上の赤枠で囲んだ「まとめ」は、イラストを用いて分かりやすく書かれており、振り返りがしやすく、右上の赤枠で囲んだ「章末確認テスト」で自分の理解度を確認する構成となっています。このことは、選定理由の1つ目にある「生徒が自ら内容理解を深め、学習内容を振り返り、確認しやすい内容」となっています。

また、実験のほかに、教科書の各所にある「やってみよう」では、身の回りにあるものを使ってすぐに取り組むことができ、探究しやすい活動が掲載されています。例えば、このスライドの赤枠で囲んだ「やってみよう」では、テーブルクロス引きをする際に、どのようにするとコップが倒れないかということを試行錯誤することができます。皆様ご承知のことと思いますが、素早く、まっすぐにクロスを引くと、摩擦力がコップに伝わりにくいため、コップが倒れないのですが、このことを実際に体験し試行錯誤することで、学習指導上の重点項目の1つ目にあるとおり「自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う」構成となっています。

そのほか、左上の赤枠の「歴史とのつながり」、左下の赤枠の「社会とのつながり」といったコラムでは、興味・関心が低い生徒にも学習意欲を喚起できるよう、物理基礎と歴史などの他教科や日常とのつながりを掲載し、さらに右上の赤枠の「発展」では、より深い学びに取り組みたい生徒にも対応できるよう、「物理基礎」の履修後に主に理系選択者が履修する専門的な学習内容を扱う科目である「物理」の内容を一部掲載するなど、全ての生徒が意欲的、主体的に学習に取り組むことができる教科書となっております。

以上のことから、学習指導上の重点項目に照らし、大通高校が使用する教科書として、ふさわしいものであると考えております。

以上、本日は、2校の「物理基礎」の教科書を例に御説明させていただきましたが、いずれの学校のいずれの教科・科目についても同様に、調査研究を行い、この答申にある教科書については、全てふさわしいものであることを確認しております。

なお、全体的な教科書の傾向としましては、札幌市の学校教育において大切にしている「課題探究的な学習」ができるようなつくりになっており、生徒一人一人の主体性を大切にした多様な学びの実現に資するものとなっております。加えて、全日制課程普通科や数理データサイエンス科及び中等教育学校後期課程では、生徒の能力や進路希望に応じて、より深い学びにも対応できるものを、そして、全日制課程未来商学科におきましては、生徒の興味・関心を喚起し、主体的に取り組みやすいものを選定候補としております。また、定時制課程の大通高校及び山の手支援学校高等部におきましては、基礎・基本の定着を図るとともに、個に応じた指導が充実するように十分配慮されたものとなっております。以上で、高等学校部会の調査研究報告書（答申）の説明を終えさせていただきます。

○**檜田教育長** 高等学校及び中等教育学校後期課程用の教科用図書については、審議会から、学校ごとに、それぞれの教育課程に応じた選定の候補があげられております。各委員から、ご質問、ご意見などがございましたら、お願いします。

○**檜田教育長** よろしいでしょうか。

○**檜田教育長** 特にご質問、ご意見がなければ、高等学校及び中等教育学校後期課程用については、候補としてあげられた教科用図書を選定することとしてよろしいでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○**檜田教育長** それでは、最後に、特別支援教育用の教科用図書について審議いたします。

○**檜田教育長** その前に、私から部会長に確認させていただきたいことがあります。

○**檜田教育長** 特定の組織や団体、あるいは、会社等から、働きかけや影響力の行使、圧力等はないということによろしいでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○**檜田教育長** それでは、特別支援教育部会の部会長、調査研究報告(答申)の説明をお願いいたします。

○**特別支援教育部会部長** 特別支援教育部会部長の山の手支援学校長の宗石と申します。どうぞ、よろしく願いいたします。

それでは、特別支援教育部会の答申について御説明いたします。

はじめに、特別支援教育用の教科用図書に関する法令上の規定について御説明いたしますので、スクリーンを御覧ください。

特別支援学校小・中学部や小・中学校に設置している特別支援学級に在籍する児童生徒が使用する教科用図書においては、まず、①のように、札幌市が採択した通常の学級用の小学校、中学校の文部科学省検定済教科用図書の各教科の当該学年のものを使用することが基本となります。

しかし、特別支援学校や特別支援学級においては、児童生徒の障がいの状態や発達の段階に応じて、各教科の目標や内容を下の学年のものに替えるなど、一人一人に応じた特別の教育課程を編成することができますので、①の当該学年の教科書を使用することが適当ではないときは、設置者の定めるところにより、他の適切な教科用図書を使用することができるとなっております。

そこで②のように、札幌市が採択した小学校及び中学校の文部科学省検定済教科用図書の各教科の下の学年のものを使用することができます。

また、各教科の下の学年のものの中で適当なものがない場合には、③のように文部科学省が知的に障がいのある児童生徒用に著作した教科用図書、お手元の

☆印のついた教科用図書になりますが、こちらを使用することができます。こちらの教科用図書は、「国語」「算数・数学」「音楽」「生活」の4教科について作成されており、今年度より新たに「生活」が加わっております。

さらに、④のように、各教科の内容と関連が深い絵本や図鑑などのいわゆる「一般図書」についても教科用図書として使用できることとなっており、このことが学校教育法附則第9条に規定されております。

このように、特別支援学校や特別支援学級に在籍する児童生徒は、幅広い教科用図書の中から、児童生徒の障がいの状態や発達の段階に応じて、①～④の段階の中から適切な内容のものを選ぶことができるようになっております。

このうち、特別支援教育部会においては、④の「一般図書」についての調査研究を進めてまいりました。

また、特別支援学校高等部の教科用図書につきましては、これまで御説明した教科用図書に加え、高等学校用教科書目録に掲載している文部科学省検定済教科用図書を使用することができます。また、高等部の生徒の実態に応じた一般図書を使用する場合には、高等学校と同様に校長を委員長とする教科書選定委員会を設置し、学校で使用する一般図書の候補を選ぶこととしております。

今年度は、市立札幌豊明高等支援学校から2冊、市立札幌みなみの杜高等支援学校から3冊、市立札幌北翔支援学校から1冊の一般図書が選定の候補となりましたので、他の一般図書と併せて調査研究を進めてまいりました。

次に、「調査研究の観点」でございますが、調査研究の基本方針に基づき、「取扱内容」「内容の程度、配列、分量等」「使用上の配慮」に加え、昨年度の需要数などについても確認し、本市の特別支援学校や特別支援学級に在籍する児童生徒一人一人が効果的に活用できる図書について、慎重かつ精力的に調査研究を重ねてまいりました。

具体的には、北海道教育委員会が示す「学校教育法附則第9条の規定による一般図書採択参考資料」を参考に、そこに掲載されている329冊の一般図書について調査研究を行いました。

さらに、昨年度までの調査研究により、採択参考資料の対象となっていない一般図書49冊、今年度審議会委員から新たに推薦のあった採択参考資料の対象となっていない一般図書6冊、及び市立特別支援学校高等部から選定の候補として報告のあった一般図書6冊を加え、全部で390冊の一般図書について調査研究に当たっております。

これらの審議の結果、令和6年度使用の特別支援教育用教科用図書として、調査研究報告書答申の特支1ページから5ページの一覧にございますように、1

文部科学省検定済教科用図書の下学年用、及び同一内容の拡大教科書、2 文部科学省著作教科用図書（特別支援学校知的障害者用）、3 一般図書「くまたんのはじめてシリーズ よめるよ よめるよ あいうえお」外 158 冊、4 市立特別支援学校高等部用一般図書 6 冊、これらを採択の候補といたしました。

なお、調査研究報告書答申の特支 1 ページから 5 ページの一覧の右側「新規・継続」の中に「新」と記載されている図書は、新しく採択の候補とした図書であり、令和 6 年度用は、15 冊を新しく採択の候補としております。

次に、採択の候補とした一般図書について御説明いたします。見本本は 1 冊ずつしかございませんので、スクリーンをご覧ください。

調査研究報告書には、発達の段階を A、B、C の 3 つの段階で示しており、A の段階は発達の遅れの程度が重度、B は中度、C は軽度となっており、児童生徒の障がいの状態や発達の段階に応じて、適切な図書を選べるようにしております。

A の段階としましては、話し言葉がない子や、事物への興味・関心が出始め、簡単な物の弁別が可能な段階の児童生徒などが対象であり、教師などの話し掛けに応じ、表情、身振り、音声で表現することや、教師と一緒に、身近なものなどについて、本を通して楽しく学べるものを、どの種目においても採択の候補としております。

例えば、国語の『あっちゃんあがつく たべものあいうえお』では、左側のページに食べ物の名前が文字で書かれており、右側のページにその食べ物のイラストが描かれています。

「えっちゃん えがつく えびフライ」など、うたって、楽しみながら、様々な食べ物の名称を覚えることができるよう工夫されています。

次に、算数・数学の『さわってあそぼう ふわふわあひる』では、ページをめくると黄色いふわふわの丸が出現し、仕掛けをめくるとアヒルの子のイラストが出てくるなど、各ページごとにザラザラやベタベタなどの様々な感触を体験しながら、形を認識することができるよう配慮されています。

B の段階としましては、話し言葉があり、文字の読み書きに興味をもち始め、事物の簡単な因果関係が分かる段階の児童生徒などが対象であり、簡単な言葉でやり取りをしながら学習を進めたり、各種目の基礎的な内容について興味をもちながら学習したりすることができる図書を採択の候補としております。

例えば、国語の『ゆっくり学ぶ子のための こくご 1』では、「きもちやようすを表す言葉」や「しりとりに」などの学習を通して、平仮名の読み方や簡単な単語・文章の読みなど、豊かなイラストから子どもの語彙を増やしていけるよう工

夫されています。

次に、算数・数学の『こども かずの絵じてん』では、「1対1対応」「数の数え方」「引き算」など、基礎的な概念を獲得できるよう配慮されています。

Cの段階としましては、簡単な読み書きは可能ですが、検定済教科用図書では、学習が困難な段階の児童生徒などが対象であり、ある程度の小集団での一斉指導や調べ学習などで、より知識を深めることができ、日常的に活用できる内容の図書を採択の候補としています。

例えば、国語の『ひとりだちするための 国語』では、「自分のことを伝えよう」「手紙を書こう」「インタビューをしよう」など、「聞く」「話す」「読む」「書く」などについて横断的に学ぶことで、コミュニケーションの基礎を重視しつつ、会話や読書、作文などに楽しく興味をもてるよう工夫されています。

次に、算数・数学の『くらしに役立つ 数学』では、「割引の比較」「図書館へ行こう」「1か月の生活費の学習」などが取り上げられており、将来の自立を見据えて学習を進めることができるよう工夫されています。

以上のように、種目ごとにA、B、Cの段階があり、各段階の中でも、さらに児童生徒の障がいの状態や発達の段階に、きめ細かく応じるために、それぞれに複数冊を選定の候補としております。

次に、市立特別支援学校高等部用の一般図書について、各校1冊ずつ御説明いたします。

豊明高等支援学校では、「職業科」で、「ひとりだちするための進路学習」を採択の候補としています。

この図書では、就労に向けた基礎的な知識や技能を身に付けることができるよう、「働くこと」や「働くために」、「社会人になる」などの6つの章で構成されています。

具体的な内容としましては、「働く人の一日」「人とのつきあい」「社会人の生活」など、就労に向けた幅広い内容について、イラストなどを使いながらわかりやすくまとめられています。

次に、みなみの杜高等支援学校では、「情報科」で、「見てわかる情報モラル」を採択の候補としています。

この図書では、基礎的基本的な情報モラルに関する事項を取り上げ、生徒が陥りやすい事例について学習することができます。

具体的な内容としましては、「誹謗中傷」「肖像権とプライバシー」、このように、具体的な事例が、4コマ漫画や予防と対策などの項目毎に分けて分かりやすく解説されています。

最後に、北翔支援学校では、「職業科」で「みんなのためのルールブック あたりまえだけどとても大切なこと」を採択の候補としています。

この図書では、他者とのコミュニケーションを円滑にし、社会に出てからも大切にしていきたいマナーやルールを学ぶことができるよう工夫されています。

具体的な内容としましては、「だれかがすばらしいことをしたら拍手をしよう」「お客さまを歓迎しよう」など、状況をイメージしやすく、親しみのもてるイラストとともに、短く分かりやすい言葉により解説されています。

説明は以上となりますが、その他の採択の候補となる図書につきましても、同様に調査研究を行った結果、本市の特別支援学校及び特別支援学級に在籍する児童生徒一人一人が活用していく上で、有用性のある図書であることを確認しております。

以上、お手元の調査研究報告書のとおり部会としてまとめましたことを御報告申し上げ、私からの説明を終わらせていただきます。

○**檜田教育長** 特別支援教育用については、児童生徒の障害の種類や程度に応じて、一人一人に適した教科用図書を提供できるようにするという観点から、各種目とも幅広く選定の候補があげられております。各委員から、ご質問、ご意見などがございましたら、お願いします。

○**檜田教育長** よろしいでしょうか。

○**檜田教育長** 特にご質問、ご意見がなければ、特別支援教育用については、候補としてあげられた教科用図書を選定することとしてよろしいでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○**檜田教育長** これまでの審議において、小学校用、小学校と兼ねている義務教育学校前期課程用教科書教科用図書、高等学校・中等教育学校後期課程用教科用図書、並びに特別支援教育用教科用図書の選定が終了しました。

○**檜田教育長** 小学校用、小学校と兼ねている義務教育学校前期課程用教科書教科用図書を選定した理由については、これまでの審議を踏まえて、事務局でまとめていただき、次回8月9日の教育委員会会議で、議案として提出していただき、皆さんで確認したいと思います。

○**檜田教育長** また、中学校用、中等教育学校前期課程用の教科用図書については、来年度も現行と同じ教科書を、引き続き1年間使用することといたします。

○**檜田教育長** そのことも含め、次回、令和6年度に市立学校で使用する教科書を採択しますのでよろしくお願いいたします。

○**檜田教育長** その他、各委員から何かございますか。

(「なし」と発言する者あり)

○**檜田教育長** 以上で、令和5年第13回教育委員会会議を終了いたします。